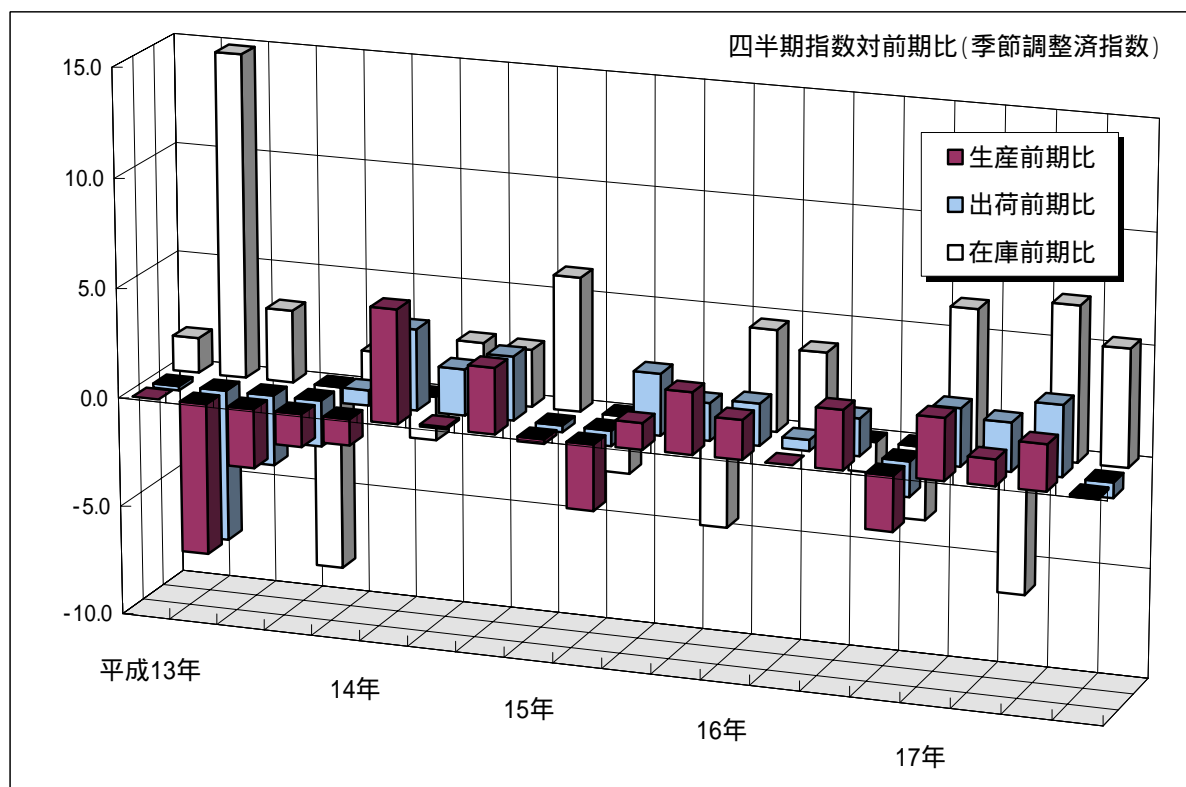


平成17年

福島県鉱工業指数年報

(平成12年基準)



うつくしま、ふくしま。

 福島県

企画調整部情報統計領域

は し が き

福島県では、県内鋳工業の生産、出荷及び在庫の動向を把握するための基礎資料として毎月、『福島県鋳工業指数月報』を作成し公表しておりますが、このたび、平成17年の動向を『平成17年福島県鋳工業指数年報』としてとりまとめました。

平成17年の鋳工業生産指数は103.4（前年比3.9%）と3年連続の上昇、鋳工業出荷指数は109.9（同5.2%）と4年連続の上昇、鋳工業在庫指数は131.1（同3.3%）と6年連続の上昇となりました。

本書が本県の鋳工業生産活動の解明や地域分析のための資料として、広く御活用いただければ幸いです。

なお、本指数の作成に当たりまして御協力をいただいております事業所及び関係機関の方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともいっそうの御協力をお願いいたします。

平成18年10月

福島県企画調整部長

目 次

平成12年基準福島県鉱工業指数作成の概要	1
平成17年福島県鉱工業指数の動向	
1 鉱工業の動向	
(1) 概況	5
(2) 業種別の動向	11
(3) 財別の動向	30
2 電力・ガス事業の推移	36
統計表	
1 原指数	
第1表 業種別生産指数	38
第2表 業種別出荷指数	40
第3表 業種別在庫指数	42
第4表 財別生産指数	44
第5表 財別出荷指数	45
第6表 財別在庫指数	46
2 季節調整済指数	
第7表 業種別生産指数	48
第8表 業種別出荷指数	50
第9表 業種別在庫指数	52
第10表 財別生産指数	54
第11表 財別出荷指数	55
第12表 財別在庫指数	56
別表	
平成12年基準指数採用品目及びウエイト	58

(2) 特殊分類 (財別分類)

特殊分類は、品目の経済的用途によって財別に分類したものである。各財格付けの定義は表1のとおりである。

表1 特殊分類の定義

特殊分類 (財別分類)	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く
投資財	資本財と建設財の合計
資本財	家計以外で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高いもの
建設財	建設工事用の資材及び建築物に対する内装品並びに土木工事用の資材
消費財	家計で購入される製品 (耐久消費財と非耐久消費財の合計)
耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年以上で、比較的購入単価が高いもの
非耐久消費財	原則として想定耐用年数が1年未満又は比較的購入単価が低いもの
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料等として投入される製品。ただし、企業消費財を含み、建設財を除く
鉱工業用生産財	鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品及び工具等として再投入される製品
その他用生産財	非鉱工業用の原材料、燃料、容器、消耗品及び企業消費財等

3 採用品目

経済産業省生産動態統計調査 (福島県分) 及び福島県鉱工業指数調査から業種・特殊分類ごとに代表性を考慮して選定した。

採用品目数は、生産指数及び出荷指数が227品目、在庫指数は138品目である。

(表2、3参照)

また、採用品目の名称及び単位は別表 (P57~61) のとおりである。

表2 業種別品目数

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		227	227	138
製造工業		223	223	135
鉄鋼業		9	9	5
非鉄金属工業		10	10	6
金属製品工業		9	9	4
一般機械工業		22	22	9
電気機械工業		17	17	9
情報通信機械工業		13	13	5
電子部品・デバイス工業		13	13	6
輸送機械工業		10	10	3
精密機械工業		8	8	4
窯業・土石製品工業		18	18	17
化学工業		27	27	22
プラスチック製品工業		7	7	6
パルプ・紙・紙加工品工業		8	8	6
繊維工業		10	10	10
食料品・たばこ工業		25	25	11
その他工業		17	17	12
ゴム・皮革製品工業		6	6	4
木材・木製品工業		3	3	3
その他製品工業		8	8	5
鉱業		4	4	3
(参考)				
産業総合		230	230	138
電力・ガス事業		2	2	0
新聞・出版業		1	1	0
鉱工業 (除く印刷物)		226	226	0
機械工業		83	83	36
旧電気機械工業		43	43	20

表3 財別品目数

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		242	242	149
最終需要財		117	117	66
投資財		59	59	33
資本財		32	32	11
建設財		27	27	22
消費財		58	58	33
耐久消費財		16	16	9
非耐久消費財		42	42	24
生産財		125	125	83
鉱工業用生産財		116	116	78
その他用生産財		9	9	5

(注) 複数の財にウエイトを分割している品目があるため、業種別の計と一致しない。

4 ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、多数の品目の生産数量、出荷数量、在庫数量の変化を総合的に比較するために必要な要素である。

生産指数は付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は年平均在庫額ウェイトであり、指数全体を10000.0として採用品目ごとに万分比で示している。

算定の基礎資料は、製造工業については『平成12年工業統計調査(福島県)』、鉱業については『本邦鉱業のすう勢調査(経済産業省)』及び『経済産業省生産動態統計調査(福島県分)』を用いた。

業種別、財別のウェイトは表4、5のとおりである。

また、採用品目のウェイト及び財別格付けは別表(P57~61)のとおりである。

表4 業種別生産、出荷、在庫ウェイト

業種分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
製造工業		9974.5	9985.9	9997.5
鉄鋼業		100.1	103.2	80.0
非鉄金属工業		228.9	248.6	176.6
金属製品工業		458.9	421.6	340.5
一般機械工業		615.1	512.3	411.7
電気機械工業		530.9	703.2	620.0
情報通信機械工業		1314.0	1680.6	1748.6
電子部品・デバイス工業		1039.4	1200.6	608.4
輸送機械工業		538.2	581.3	235.5
精密機械工業		300.1	262.2	179.3
窯業・土石製品工業		472.5	400.1	756.5
化学工業		1250.5	873.3	1729.4
プラスチック製品工業		419.7	373.8	443.2
パルプ・紙・紙加工品工業		205.3	247.9	265.8
繊維工業		265.9	180.8	151.8
食料品・たばこ工業		1490.0	1521.6	1680.8
その他工業		745.0	674.8	569.4
ゴム、皮革製品工業		270.0	245.9	172.3
木材・木製品工業		128.7	125.9	165.8
その他製品工業		346.3	303.0	231.3
鉱業		25.5	14.1	2.5
(参考)				
産業総合		14415.9	13826.1	10000.0
電力・ガス事業		4356.5	3803.2	-
新聞・出版業		59.4	22.9	-
鉱工業(除く印刷物)		9852.0	9883.0	10000.0
機械工業		4337.7	4940.2	3803.5
旧電気機械工業		2884.3	3584.4	2977.0

表5 財別生産、出荷、在庫ウェイト

特殊分類	指数分類	生産指数 (付加価値額)	出荷指数	在庫指数
鉱工業		10000.0	10000.0	10000.0
	最終需要財	5098.4	5269.5	4859.8
	投資財	1724.7	1905.7	1595.4
	資本財	974.3	1230.0	593.5
	建設財	750.4	675.7	1001.9
	消費財	3373.7	3363.8	3264.4
	耐久消費財	910.0	990.4	1299.2
	非耐久消費財	2463.7	2373.4	1965.2
	生産財	4901.6	4730.5	5140.2
	鉱工業用生産財	4750.5	4608.1	4736.1
	その他用生産財	151.1	122.4	404.1

5 指数の算式

総合指数の算式は、個別系列を基準時の固定ウェイトで加重平均するラスパイレス算式であり、次の式で表される。

$$\text{総合指数} = \frac{\left[\frac{\text{品目別比較時数量}}{\text{品目別基準時数量}} \times \text{品目別基準時(平成12年)ウェイト} \right] \text{の総和}}{\text{品目別基準時(平成12年)ウェイトの総和}} \times 100$$

6 季節調整

指数の時系列は、長期的傾向、景気循環などの変動要因を含んでいるが、季節的要因(四季の変動から成る自然要因、盆・正月などの社会的習慣、決算期などの商習慣等の社会的要因)の影響を受けて、毎年一定の変動を繰り返している。季節調整法とは、季節的な変動要因を原指数から取り除く方法である。

(1) 季節調整の方法

季節調整法は、米国センサス局の X-12-ARIMA を採用し、平成11年1月から平成17年12月までの84時点の時系列データにより季節指数を算出している。

(2) 季節調整済指数の算出

季節調整済指数の算出は、次の式による。

$$\text{季節調整済指数} = \frac{\text{原指数}}{\text{季節指数}} \times 100$$

<注> 季節調整済指数は主に短期的動向(前月との比較や、四半期別の前期との比較)をみるのに利用し、原指数は前年同月との比較に利用する。

平成 17 年福島県鋳工業指数の動向

1 鋳工業の動向

(1) 概況

ア 年別推移

平成 17 年の生産指数（原指数年平均）は、103.4 で前年比 3.9%、出荷指数は 109.9 で同 5.2%、在庫指数は 131.1 で同 3.3%とそれぞれ上昇した（表 1）

生産指数は 3 年連続で上昇し、出荷指数は 4 年連続で上昇し、在庫指数は 6 年連続で上昇した。

また、平成 17 年の季節調整済指数の月別推移をみると、生産指数は、3月に大きく低下した後、上昇と低下を繰り返して緩やかに上昇し、8月以降は横ばい傾向で推移した（表 2）

出荷指数は、上昇と低下を繰り返して緩やかに上昇し、8月以降は横ばい傾向で推移した。

在庫指数は、年前半は低下傾向、年後半は上昇傾向で推移した。

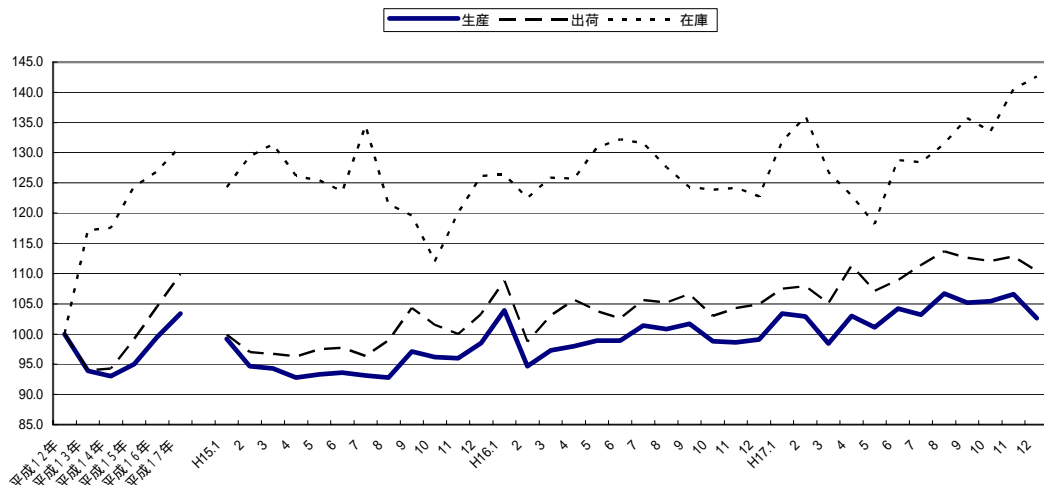
表1 鋳工業指数の年別推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	100.0	93.9	93.0	95.0	99.5	103.4
前年比(%)	0.9	6.1	1.0	2.2	4.7	3.9
出荷	100.0	94.0	94.3	99.1	104.5	109.9
前年比(%)	0.9	6.0	0.3	5.1	5.4	5.2
在庫	100.0	117.2	117.6	124.4	126.9	131.1
前年比(%)	1.5	17.2	0.3	5.8	2.0	3.3

表2 鋳工業指数の月別推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成15年	生産	99.2	94.7	94.3	92.8	93.3	93.6	93.1	92.8	97.1	96.2	96.0	98.5
	出荷	99.9	97.0	96.7	96.3	97.5	97.7	96.4	98.9	104.3	101.5	100.0	103.3
	在庫	124.3	129.4	131.4	126.2	125.4	123.6	134.5	121.4	119.6	112.0	120.0	126.2
平成16年	生産	103.9	94.7	97.3	98.0	98.9	98.9	101.4	100.8	101.7	98.8	98.6	99.1
	出荷	108.8	98.7	103.0	105.6	103.8	102.6	105.6	105.2	106.6	103.0	104.3	104.9
	在庫	126.4	122.5	125.9	125.7	130.8	132.2	131.6	127.6	124.3	123.9	124.2	122.8
平成17年	生産	103.4	102.9	98.4	103.0	101.1	104.2	103.2	106.7	105.2	105.4	106.6	102.6
	出荷	107.5	107.9	105.1	111.3	107.1	108.9	111.4	113.7	112.6	112.1	112.8	110.4
	在庫	131.8	136.0	126.8	122.9	118.2	128.8	128.4	131.5	135.7	133.5	140.5	142.6

図1 鋳工業指数年別(原指数)・月別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 四半期別推移

平成17年の生産指数(季節調整済指数)四半期別前期比(以下順に「1期(1~3月期)」、「2期(4~6月期)」、「3期(7~9月期)」、「4期(10~12月期)」という。)は、1期から3期連続の上昇となり、2期に低下したが、全体では上昇傾向で推移した(表3)。出荷は、1期から3期連続の上昇となり、2期に低下したが、全体では上昇傾向で推移した。

在庫は、1期に低下したが、3期、4期に上昇した。

また、生産指数及び出荷指数(原指数)の四半期別前年同期比は、平成14年1期から14期連続で前年同期比を上回った(表4)。

表3 鋳工業指数四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産 前期比(%)	96.1	93.2	94.3	96.9	98.6	98.6	101.3	98.8	101.6	102.8	105.0	104.9
	0.2	3.0	1.2	2.8	1.8	0.0	2.7	2.5	2.8	1.2	2.1	0.1
出荷 前期比(%)	97.9	97.2	99.9	101.6	103.5	104.0	105.8	104.1	106.8	109.1	112.6	111.8
	0.3	0.7	2.8	1.7	1.9	0.5	1.7	1.6	2.6	2.2	3.2	0.7
在庫 前期比(%)	128.4	125.1	125.2	119.4	124.9	129.6	127.8	123.6	131.5	123.3	131.9	138.9
	6.1	2.6	0.1	4.6	4.6	3.8	1.4	3.3	6.4	6.2	7.0	5.3

図2 鋳工業指数年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

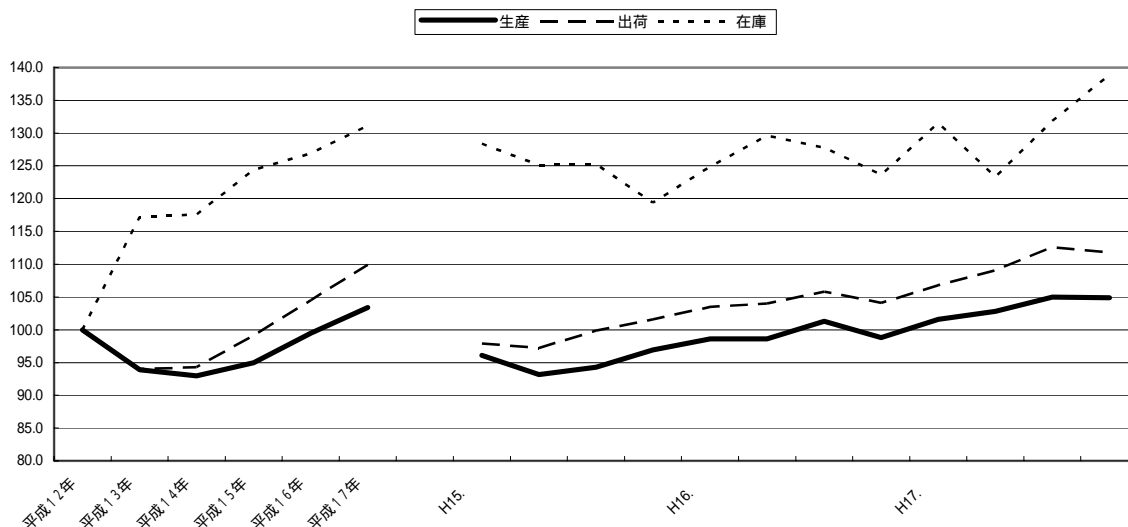
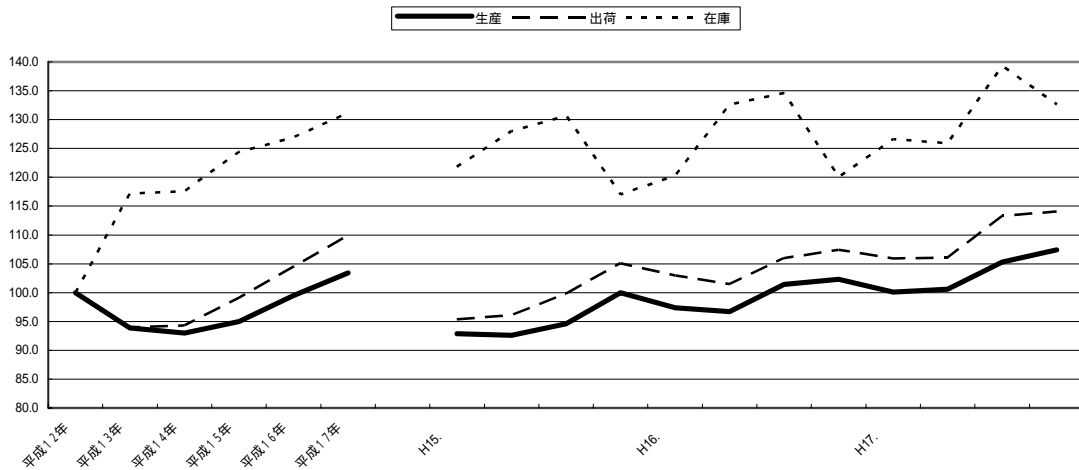


表4 鋳工業指数四半期別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産 前年同期比(%)	92.9	92.6	94.6	100.0	97.4	96.7	101.4	102.3	100.1	100.6	105.3	107.4
	7.5	0.4	0.4	0.6	4.8	4.4	7.2	2.3	2.8	4.0	3.8	5.0
出荷 前年同期比(%)	95.4	96.1	99.8	105.1	103.0	101.5	106.0	107.4	105.9	106.1	113.3	114.1
	8.3	4.3	4.4	3.5	8.0	5.6	6.2	2.2	2.8	4.5	6.9	6.2
在庫 前年同期比(%)	121.8	128.0	130.7	117.0	120.3	132.6	134.6	120.0	126.6	125.9	139.3	132.6
	9.4	9.6	6.6	2.2	1.2	3.6	3.0	2.6	5.2	5.1	3.5	10.5

図3 鉱工業指数年別(原指数)・四半期別(原指数)指数の推移(平成12年=100.0)

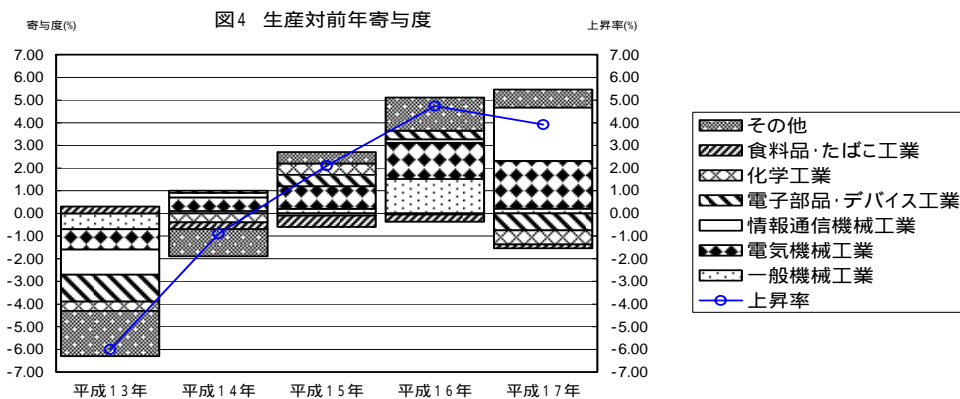


ウ 業種別概況

生産指数(原指数年平均)では、電気機械工業が前年比 28.3%、情報通信機械工業が同 19.2%、金属製品工業が同 11.3%、パルプ・紙・紙加工品工業が同 5.3%など 10 業種で上昇した。一方、繊維工業が前年比 9.2%、電子部品・デバイス工業が同 7.4%、木材・木製品工業が同 6.1%、化学工業が同 5.0%など 9 業種で低下したものの、全体として 3.9% 上昇した(表 5)。

表 5 業種別年別生産寄与度及び原指数の対前年上昇率

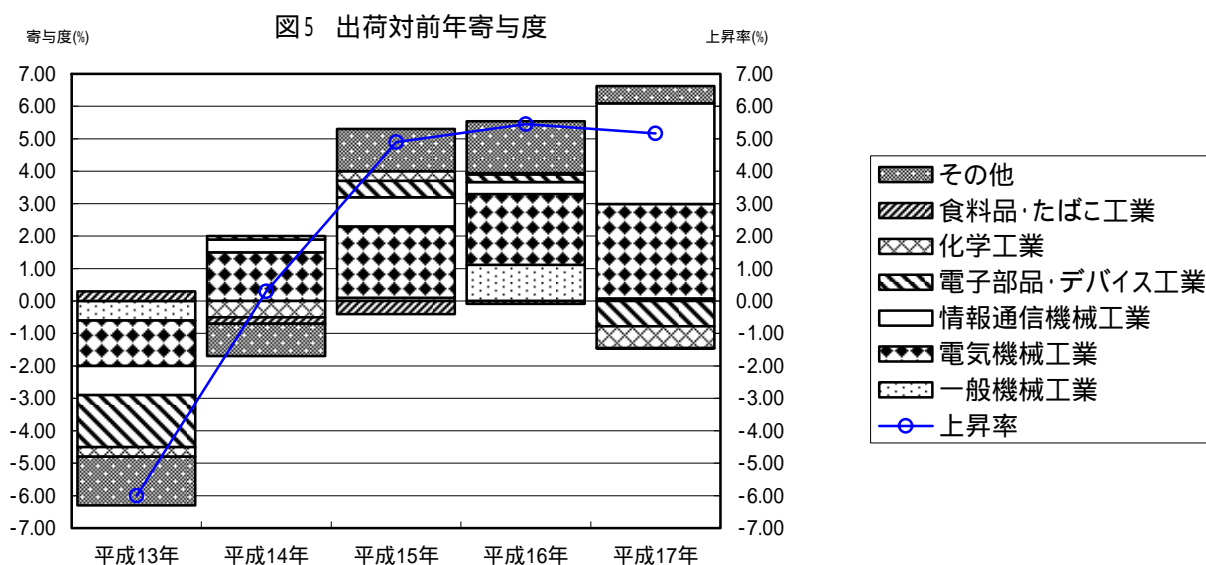
業種	寄与度					17年上昇率
	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	
鉱工業	6.1	1.0	2.2	4.7	3.9	3.9
製造工業	6.1	1.0	2.2	4.7	3.9	3.9
鉄鋼業	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.4
非鉄金属工業	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	2.3
金属製品工業	0.6	1.1	0.3	0.4	0.4	11.3
一般機械工業	0.7	0.1	0.2	1.5	0.2	2.9
電気機械工業	0.9	0.6	1.0	1.6	2.1	28.3
情報通信機械工業	1.1	0.2	0.1	0.2	2.4	19.2
電子部品・デバイス工業	1.2	0.1	0.5	0.4	0.8	7.4
輸送機械工業	0.0	0.0	0.1	0.6	0.2	3.5
精密機械工業	0.1	0.4	0.2	0.2	0.1	3.3
窯業・土石製品工業	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	1.4
化学工業	0.4	0.4	0.5	0.1	0.6	5.0
プラスチック製品工業	0.3	0.4	0.1	0.4	0.2	4.6
パルプ・紙・紙加工品工業	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	5.3
繊維工業	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	9.2
食料品・たばこ工業	0.3	0.3	0.5	0.3	0.2	1.2
その他工業	0.5	0.1	0.0	0.0	0.1	1.5
ゴム、皮革製品工業	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	2.1
木材・木製品工業	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	6.1
その他製品工業	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	2.8
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.4



出荷指数では、電気機械工業が前年比 27.1%、情報通信機械工業が同 18.5%、金属製品工業が同 8.8%、パルプ・紙・紙加工品工業が同 4.9%など 11 業種で上昇した。一方、繊維工業が前年比 10.3%、化学工業が同 8.3%、電子部品・デバイス工業が同 7.3%、精密機械工業が同 5.3%など 8 業種で低下したものの、全体として 5.2%上昇した（表 6）

表 6 業種別年別出荷寄与度及び原指数の対前年上昇率

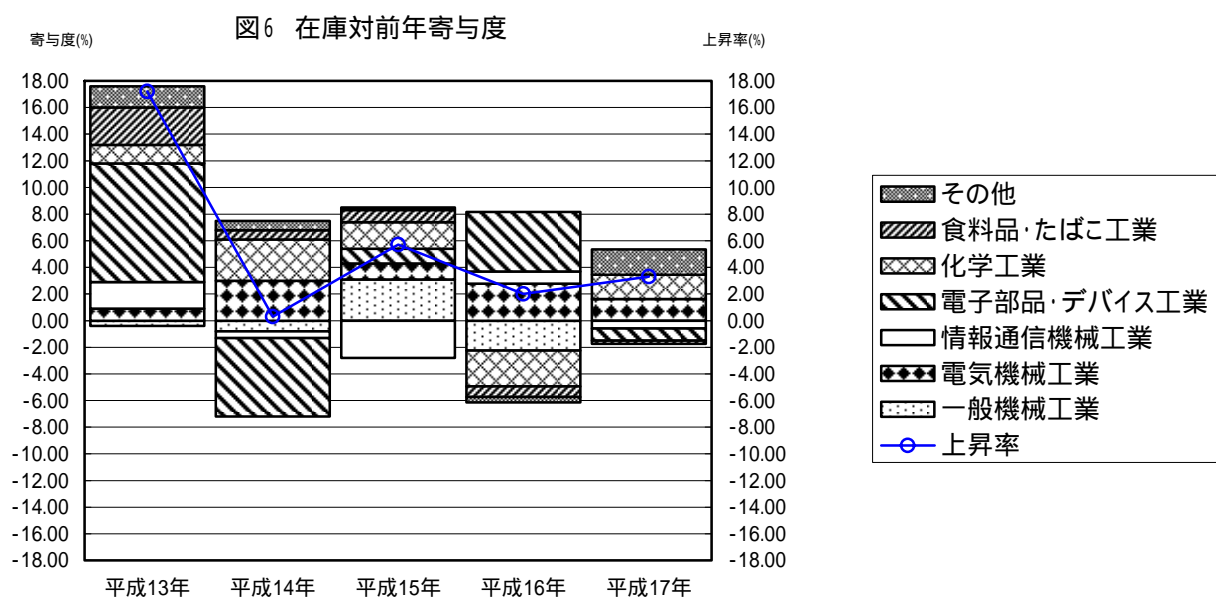
業 種	寄与度					17年上昇率
	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	
鉱工業	6.0	0.3	5.1	5.4	5.2	5.2
製造工業	6.1	0.3	5.1	5.4	5.2	5.2
鉄鋼業	0.1	0.0	0.3	0.5	0.0	1.3
非鉄金属工業	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	4.0
金属製品工業	0.7	1.1	0.3	0.4	0.3	8.8
一般機械工業	0.6	0.0	0.1	1.1	0.1	1.4
電気機械工業	1.4	1.5	2.2	2.2	2.9	27.1
情報通信機械工業	0.9	0.4	0.9	0.4	3.1	18.5
電子部品・デバイス工業	1.6	0.1	0.5	0.2	0.8	7.3
輸送機械工業	0.0	0.1	0.1	0.6	0.3	4.3
精密機械工業	0.0	0.2	0.1	0.4	0.1	5.3
窯業・土石製品工業	0.4	0.1	0.2	0.0	0.1	3.7
化学工業	0.3	0.5	0.3	0.0	0.7	8.3
プラスチック製品工業	0.2	0.3	0.4	0.3	0.1	1.9
パルプ・紙・紙加工品工業	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	4.9
繊維工業	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	10.3
食料品・たばこ工業	0.3	0.2	0.4	0.1	0.0	0.1
その他工業	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0
ゴム、皮革製品工業	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	1.5
木材・木製品工業	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	5.1
その他製品工業	0.2	0.2	0.2	0.0	0.1	2.3
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0



在庫指数では、輸送機械工業が前年比 85.8%、鉄鋼業が同 15.3%、電気機械工業が同 13.5%、窯業・土石製品工業が同 12.8%、化学工業が同 11.0%など 9 業種で上昇した。一方、精密機械工業が前年比 15.1%、パルプ・紙・紙加工品工業が同 10.6%、一般機械工業が同 10.2%、電子部品・デバイス工業が同 7.6%など 10 業種で低下したものの、全体として 3.3% 上昇した(表 7)。

表7 業種別年別在庫寄与度及び原指数の対前年上昇率

業種	寄与度					17年上昇率
	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	
鉱工業	17.2	0.3	5.8	2.0	3.3	3.3
製造工業	17.8	0.3	5.8	2.0	3.3	3.3
鉄鋼業	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	15.3
非鉄金属工業	0.5	0.2	0.0	0.2	0.2	8.2
金属製品工業	0.2	0.9	0.5	0.0	0.0	2.9
一般機械工業	0.4	0.8	3.1	2.2	0.3	10.2
電気機械工業	0.9	3.0	1.2	2.8	1.6	13.5
情報通信機械工業	2.0	0.5	2.8	0.9	0.6	4.5
電子部品・デバイス工業	8.9	5.9	1.1	4.5	0.9	7.6
輸送機械工業	1.0	1.1	0.4	0.2	1.4	85.8
精密機械工業	0.6	0.6	0.7	0.2	0.2	15.1
窯業・土石製品工業	0.7	0.1	0.7	1.8	0.7	12.8
化学工業	1.4	3.1	2.0	2.7	1.8	11.0
プラスチック製品工業	0.5	1.0	1.2	1.0	0.0	0.5
パルプ・紙・紙加工品工業	0.2	0.0	0.2	0.0	0.3	10.6
繊維工業	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	6.9
食料品・たばこ工業	2.8	0.7	0.9	0.8	0.2	1.4
その他工業	0.6	0.7	0.5	0.1	0.1	2.2
ゴム、皮革製品工業	0.0	0.1	0.3	0.0	0.1	6.1
木材・木製品工業	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	1.1
その他製品工業	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	2.2
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0

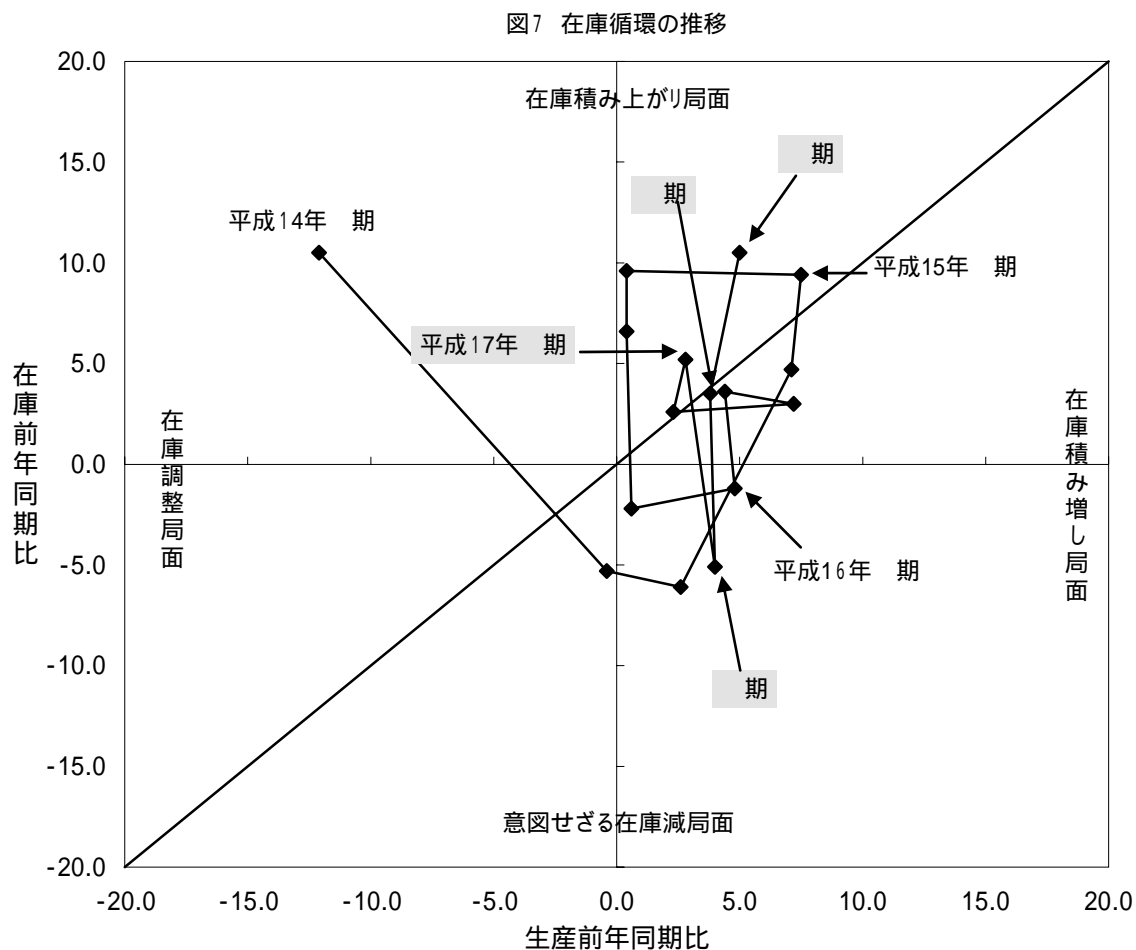


エ 在庫循環の推移

生産と在庫の関係を見ると、生産は前年同期比で平成17年 期の上昇幅を最大として、平成14年 期から14期連続で前年同期を上回った。

一方、在庫は前年同期比で平成17年 期に5期ぶりに前年同期を下回ったものの、 期、 期に前年同期を上回った。

このため、平成17年は生産は上昇傾向にあって、在庫は 期～ 期に上昇と低下を繰り返す、 期に大きく上昇したことから「在庫積み増し局面」・「在庫積み上がり局面」での在庫循環の足踏みという状況を示した(図7)。



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	生産、出荷とも好調に推移し、減少していた在庫も積み増される。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み増される。
在庫調整局面 (景気後退期)	生産を調整することによって、在庫が減少する。

(2) 業種別の動向

ア 鉄鋼業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、133.8 で前年比 0.4%低下、出荷指数は172.4 で同 1.3%、在庫指数は159.8 で同 15.3%それぞれ上昇した（表8）。

生産指数は4年ぶりに低下し、出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は6年連続で上昇した。

品目別で見ると、生産は、特殊鋼鋼管、可鍛鋳鉄、銑鉄鋳物など5品目が上昇し、鋳鋼品、磨棒鋼・線類、粗鋼など4品目が低下した。

出荷は、可鍛鋳鉄、特殊鋼鋼管、銑鉄鋳物など5品目が上昇し、鋳鋼品、磨棒鋼・線類、粗鋼など4品目が低下した。

在庫は、磨棒鋼・線類、特殊鋼鋼管、普通鋼鋼管など5品目が上昇した。

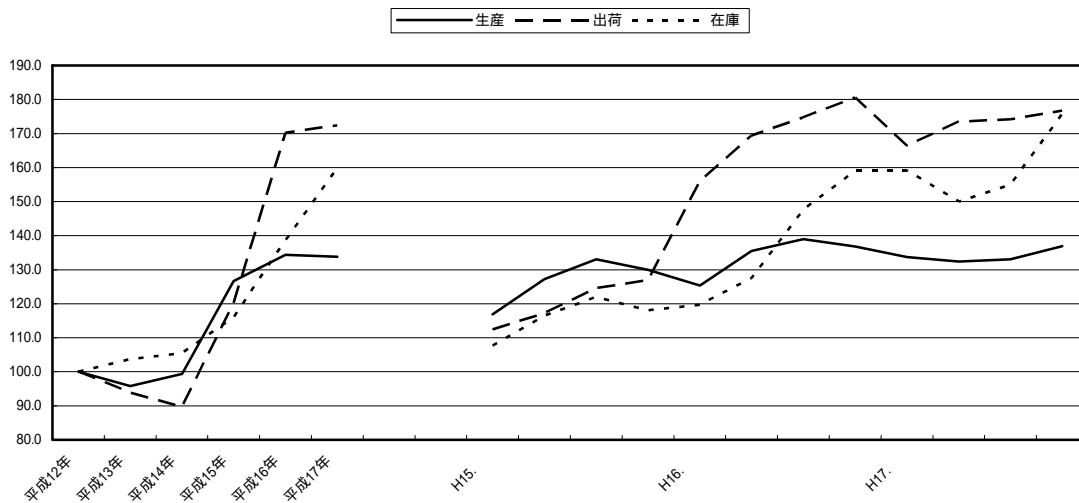
表8 鉄鋼業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	95.8	99.4	126.7	134.4	133.8
前年比(%)	4.2	3.8	27.5	6.1	0.4
出荷	93.9	89.7	120.3	170.2	172.4
前年比(%)	6.1	4.5	34.1	41.5	1.3
在庫	103.7	105.5	116.0	138.6	159.8
前年比(%)	3.7	1.7	10.0	19.5	15.3

表9 鉄鋼業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	116.9	127.2	133.1	130.0	125.4	135.5	139.0	136.8	133.7	132.4	133.1	136.9
前期比(%)	7.0	8.8	4.6	2.3	3.5	8.1	2.6	1.6	2.3	1.0	0.5	2.9
出荷	112.5	117.3	124.6	127.0	156.0	169.4	174.8	180.6	166.4	173.5	174.2	176.7
前期比(%)	16.1	4.3	6.2	1.9	22.8	8.6	3.2	3.3	7.9	4.3	0.4	1.4
在庫	107.7	116.5	122.0	118.1	119.7	127.5	147.7	159.0	159.1	150.0	155.0	175.7
前期比(%)	4.6	8.2	4.7	3.2	1.4	6.5	15.8	7.7	0.1	5.7	3.3	13.4

図8 鉄鋼業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 非鉄金属工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、104.7で前年比2.3%、出荷指数は107.1で同4.0%、在庫指数は169.2で同8.2%それぞれ上昇した(表10)。

生産指数及び出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は6年連続で上昇した。

品目別で見ると、生産は、アルミニウム系二次地金、銅線の2品目が上昇し、銅系鋳物、アルミニウム圧延製品、ダイカストなど8品目が低下した。

出荷は、銅線、アルミニウム系二次地金、電気銅の3品目が上昇し、アルミニウム圧延製品、銅系鋳物、ダイカストなど7品目が低下した。

在庫は、アルミニウム圧延製品、アルミニウム系二次地金、銅ケーキ・ピレットなど4品目が上昇し、電気銅、銅線の2品目が低下した。

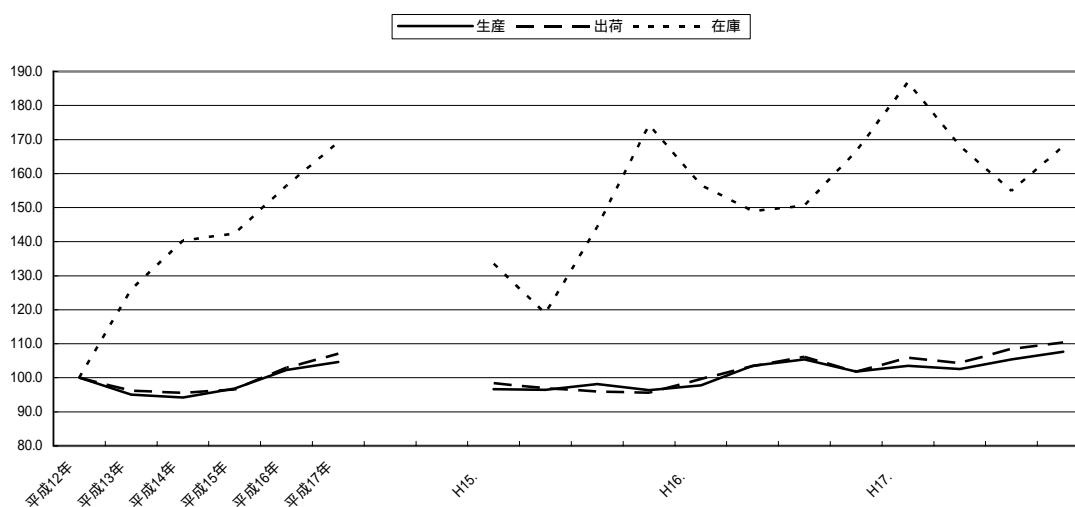
表10 非鉄金属工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	95.1	94.2	96.8	102.3	104.7
前年比(%)	4.9	0.9	2.8	5.7	2.3
出荷	96.2	95.6	96.6	103.0	107.1
前年比(%)	3.8	0.6	1.0	6.6	4.0
在庫	126.0	140.4	142.4	156.4	169.2
前年比(%)	26.0	11.4	1.4	9.8	8.2

表11 非鉄金属工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	96.7	96.5	98.2	96.4	97.8	103.5	105.4	101.8	103.5	102.6	105.4	107.7
前期比(%)	4.7	0.2	1.8	1.8	1.5	5.8	1.8	3.4	1.7	0.9	2.7	2.2
出荷	98.4	96.9	96.0	95.6	99.7	103.4	106.2	101.8	105.9	104.4	108.5	110.4
前期比(%)	1.9	1.5	0.9	0.4	4.3	3.7	2.7	4.1	4.0	1.4	3.9	1.8
在庫	133.5	119.0	144.4	174.3	156.6	149.0	150.6	166.6	186.8	168.1	154.9	168.0
前期比(%)	11.0	10.9	21.3	20.7	10.2	4.9	1.1	10.6	12.1	10.0	7.9	8.5

図9 非鉄金属工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ウ 金属製品工業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、92.9で前年比11.3%、出荷指数は81.8で同8.8%それぞれ上昇し、在庫指数は47.3で同2.9%低下した（表12）。

生産指数及び出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は2年ぶりに低下した。

品目別で見ると、生産は、鉄塔、粉末冶金製機械材料、超硬工具など6品目が上昇し、産業用軽金属板、鉄骨、スチール・ステンレス製建具の3品目が低下した。

出荷は、鉄塔、粉末冶金製機械材料、橋りょうなど5品目が上昇し、超硬工具、産業用軽金属板、鉄骨など4品目が低下した。

在庫は、産業用軽金属板のみが上昇し、超硬工具、金網の2品目が低下した。

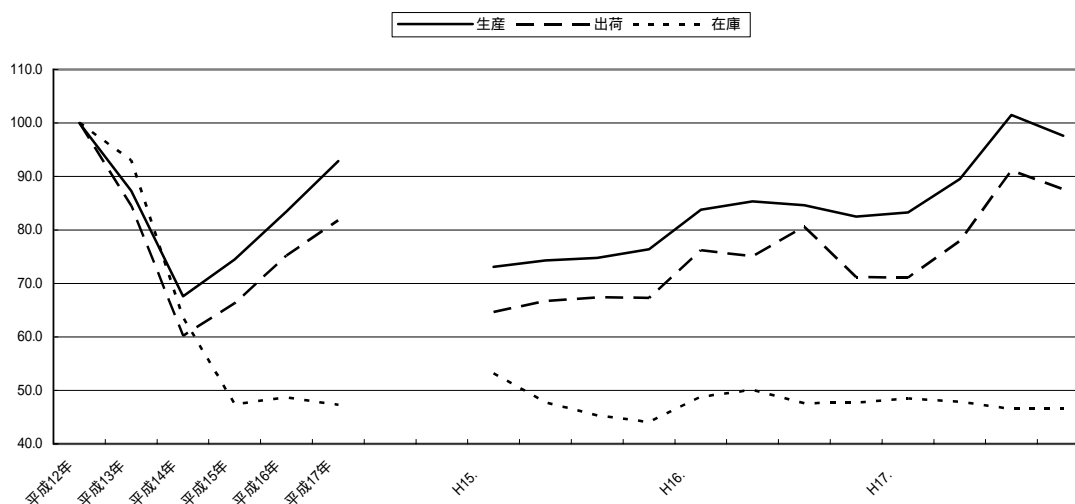
表12 金属製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	87.3	67.6	74.5	83.5	92.9
前年比(%)	12.7	22.6	10.2	12.1	11.3
出荷	84.5	60.2	66.3	75.2	81.8
前年比(%)	15.5	28.8	10.1	13.4	8.8
在庫	93.0	63.6	47.4	48.7	47.3
前年比(%)	7.0	31.6	25.5	2.7	2.9

表13 金属製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	73.1	74.3	74.8	76.4	83.8	85.3	84.6	82.5	83.3	89.5	101.5	97.6
前期比(%)	4.7	1.6	0.7	2.1	9.7	1.8	0.8	2.5	1.0	7.4	13.4	3.8
出荷	64.7	66.7	67.4	67.3	76.2	75.1	80.6	71.2	71.1	77.9	91.1	87.6
前期比(%)	4.4	3.1	1.0	0.1	13.2	1.4	7.3	11.7	0.1	9.6	16.9	3.8
在庫	53.2	47.8	45.3	44.1	48.8	50.1	47.6	47.7	48.5	47.9	46.5	46.6
前期比(%)	11.3	10.2	5.2	2.6	10.7	2.7	5.0	0.2	1.7	1.2	2.9	0.2

図10 金属製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



エ 一般機械工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、119.8で前年比2.9%、出荷指数は112.8で同1.4%それぞれ上昇し、在庫指数は81.3で同10.2%低下した(表14)。

生産指数は4年連続で上昇し、出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は2年連続で低下した。

品目別でみると、生産は、パルプ・製紙機械、特殊鋼切削工具、食料品加工機械など9品目が上昇し、研削盤、クレーン、C(W)BN工具など12品目が低下した。

出荷は、パルプ・製紙機械、食料品加工機械、特殊鋼切削工具など9品目が上昇し、C(W)BN工具、研削盤、クレーンなど12品目が低下した。

在庫は、食料品加工機械、金属工作機械の2品目が上昇し、油圧機器、C(W)BN工具、ダイヤモンド工具など7品目が低下した。

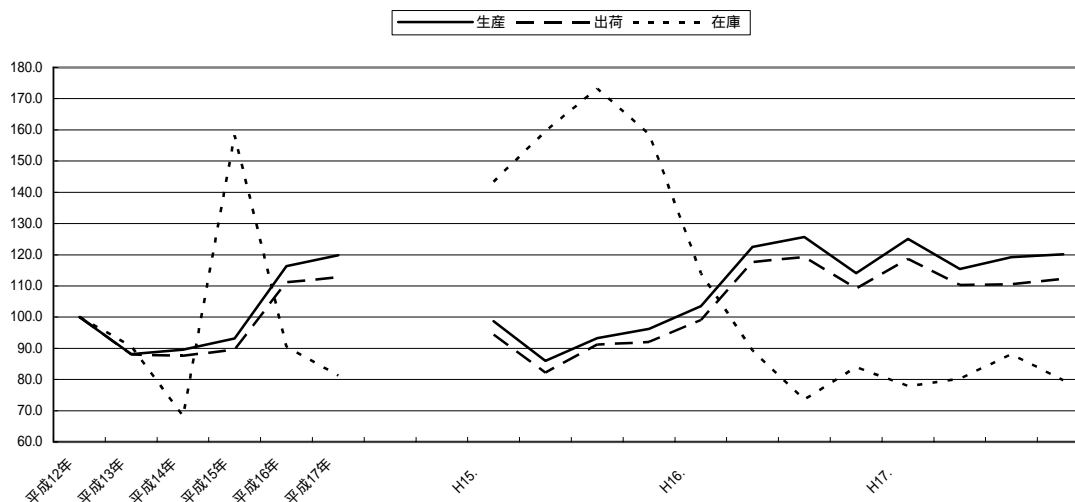
表14 一般機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	88.1	89.6	93.2	116.4	119.8
前年比(%)	11.9	1.7	4.0	24.9	2.9
出荷	88.0	87.6	89.6	111.2	112.8
前年比(%)	12.0	0.5	2.3	24.1	1.4
在庫	90.6	68.2	158.2	90.5	81.3
前年比(%)	9.4	24.7	132.0	42.8	10.2

表15 一般機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	98.7	86.0	93.3	96.2	103.5	122.5	125.7	114.1	125.1	115.4	119.2	120.2
前期比(%)	14.3	12.9	8.5	3.1	7.6	18.4	2.6	9.2	9.6	7.8	3.3	0.8
出荷	94.4	82.2	91.2	92.0	99.0	117.7	119.2	109.2	118.6	110.3	110.6	112.3
前期比(%)	14.7	12.9	10.9	0.9	7.6	18.9	1.3	8.4	8.6	7.0	0.3	1.5
在庫	143.4	159.6	173.2	158.5	114.0	89.3	73.5	83.9	77.9	80.2	88.0	79.7
前期比(%)	114.0	11.3	8.5	8.5	28.1	21.7	17.7	14.1	7.2	3.0	9.7	9.4

図11 一般機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



オ 電気機械工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、177.7で前年比28.3%、出荷指数は203.4で同27.1%、在庫指数は281.8で同13.5%それぞれ上昇した(表16)。

生産指数及び出荷指数は4年連続で上昇し、在庫指数は5年連続で上昇した。

品目別で見ると、生産は、シリコンウェハ、光ディスク、放電ランプなど8品目が上昇し、ビデオ機器、変圧器、乾電池など9品目が低下した。

出荷は、シリコンウェハ、光ディスク、放電ランプなど8品目が上昇し、ビデオ機器、変圧器、アルカリ蓄電池など9品目が低下した。

在庫は、シリコンウェハ、放電ランプ、鉛電池の3品目が上昇し、換気扇、乾電池、リチウムイオン蓄電池の3品目が低下した。

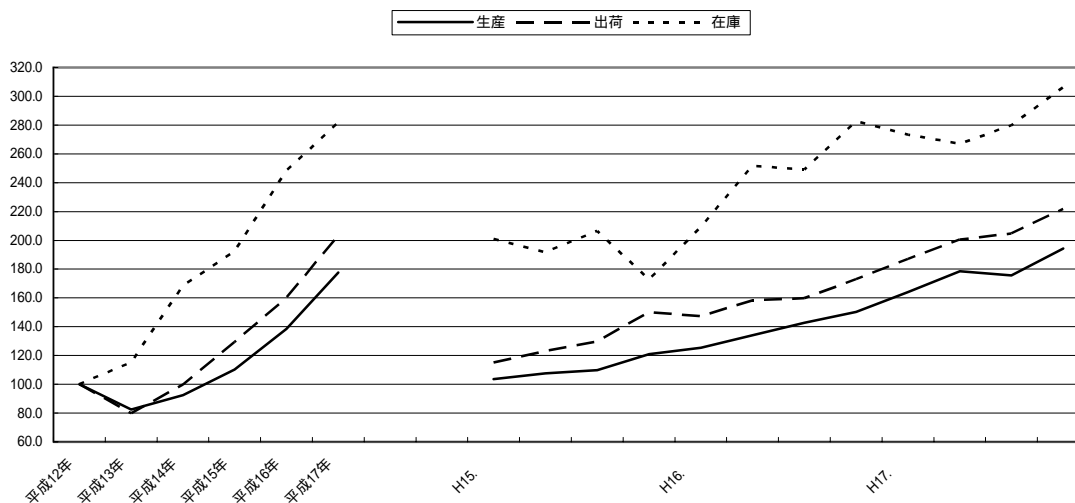
表16 電気機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	82.5	92.5	110.2	138.5	177.7
前年比(%)	17.5	12.1	19.1	25.7	28.3
出荷	79.8	99.9	129.4	160.0	203.4
前年比(%)	20.2	25.2	29.5	23.6	27.1
在庫	115.1	168.6	192.3	248.3	281.8
前年比(%)	15.1	46.5	14.1	29.1	13.5

表17 電気機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	103.5	107.7	109.8	121.0	125.5	134.0	142.8	150.4	164.2	178.6	175.7	194.3
前期比(%)	2.8	4.1	1.9	10.2	3.7	6.8	6.6	5.3	9.2	8.8	1.6	10.6
出荷	115.2	123.2	129.8	150.1	147.5	158.3	159.8	173.0	187.1	200.5	204.9	221.6
前期比(%)	4.6	6.9	5.4	15.6	1.7	7.3	0.9	8.3	8.2	7.2	2.2	8.2
在庫	200.9	191.7	206.6	172.8	209.5	251.8	249.0	282.6	273.2	267.1	279.8	306.3
前期比(%)	0.0	4.6	7.8	16.4	21.2	20.2	1.1	13.5	3.3	2.2	4.8	9.5

図12 電気機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



カ 情報通信機械工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、110.5で前年比19.2%、出荷指数は123.4で同18.5%それぞれ上昇し、在庫指数は91.7で同4.5%低下した(表18)。

生産指数は2年連続、出荷指数は4年連続でそれぞれ上昇し、在庫指数は2年ぶりに低下した。

品目別でみると、生産は、液晶テレビジョン受信機、移動通信装置(携帯電話・PHS)印刷装置など7品目が上昇し、アンプ・スピーカ、録音再生装置、ボタン電話装置など5品目が低下した。

出荷は、液晶テレビジョン受信機、移動通信装置(携帯電話・PHS)印刷装置など7品目が上昇し、アンプ・スピーカ、録音再生装置、ボタン電話装置など5品目が低下した。

在庫は、カーナビゲーションシステムが上昇し、ボタン電話装置、電話機、液晶テレビジョン受信機など4品目が低下した。

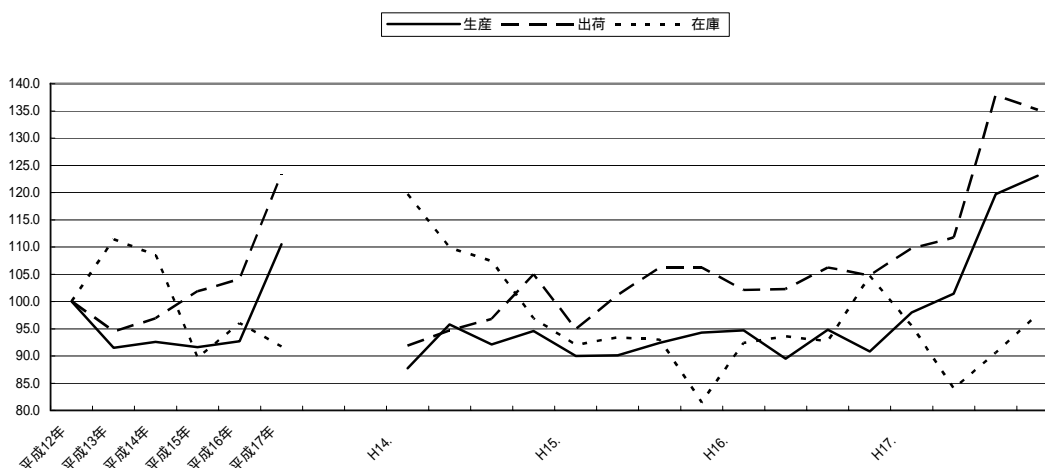
表18 情報通信機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	91.5	92.6	91.6	92.7	110.5
前年比(%)	8.5	1.2	1.1	1.2	19.2
出荷	94.5	96.9	101.9	104.1	123.4
前年比(%)	5.5	2.5	5.2	2.2	18.5
在庫	111.4	108.5	89.6	96.0	91.7
前年比(%)	11.4	2.6	17.4	7.1	4.5

表19 情報通信機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	90.0	90.1	92.4	94.3	94.7	89.5	94.8	90.8	98.0	101.4	119.7	123.1
前期比(%)	4.9	0.1	2.6	2.1	0.4	5.5	5.9	4.2	7.9	3.5	18.0	2.8
出荷	94.9	101.2	106.2	106.2	102.1	102.3	106.2	104.8	109.8	111.8	137.9	135.2
前期比(%)	9.6	6.6	4.9	0.0	3.9	0.2	3.8	1.3	4.8	1.8	23.3	2.0
在庫	92.0	93.4	93.0	81.4	92.4	93.6	92.7	104.7	95.5	84.0	90.6	97.6
前期比(%)	5.1	1.5	0.4	12.5	13.5	1.3	1.0	12.9	8.8	12.0	7.9	7.7

図13 情報通信機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



キ 電子部品・デバイス工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、90.5で前年比7.4%、出荷指数は86.3で同7.3%、在庫指数は234.8で同7.6%それぞれ低下した(表20)。

生産指数及び出荷指数は4年ぶり、在庫指数は3年ぶりにそれぞれ低下した。

品目別でみると、生産は、水晶振動子が上昇し、トランス、液晶素子、スイッチなど12品目が低下した。

出荷は、水晶振動子が上昇し、トランス、液晶素子、スイッチなど12品目が低下した。

在庫は、半導体素子が上昇し、液晶素子、混成集積回路の2品目が低下した。

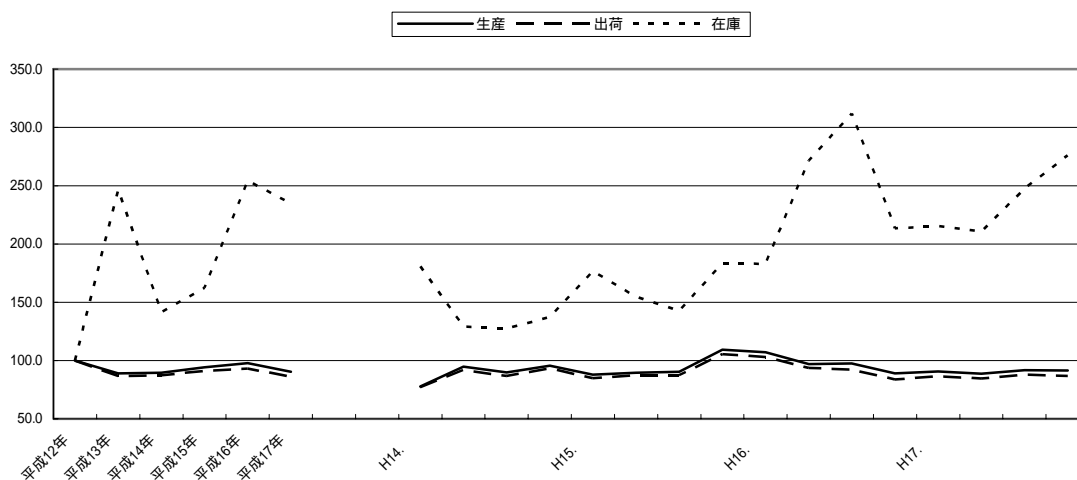
表20 電子部品・デバイス工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	88.9	89.5	94.2	97.7	90.5
前年比(%)	11.1	0.7	5.3	3.7	7.4
出荷	86.8	87.3	91.2	93.1	86.3
前年比(%)	13.2	0.6	4.5	2.1	7.3
在庫	246.7	141.6	162.5	254.0	234.8
前年比(%)	146.7	42.6	14.8	56.3	7.6

表21 電子部品・デバイス工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	88.0	89.6	90.3	109.4	107.1	97.1	97.5	89.1	90.6	88.6	91.8	91.5
前期比(%)	7.9	1.8	0.8	21.2	2.1	9.3	0.4	8.6	1.7	2.2	3.6	0.3
出荷	84.9	87.4	87.4	105.5	103.1	93.6	92.4	83.7	86.6	84.5	87.9	86.9
前期比(%)	9.2	2.9	0.0	20.7	2.3	9.2	1.3	9.4	3.5	2.4	4.0	1.1
在庫	176.6	154.7	142.6	183.4	183.1	271.3	311.9	213.4	215.5	210.6	247.4	275.8
前期比(%)	28.6	12.4	7.8	28.6	0.2	48.2	15.0	31.6	1.0	2.3	17.5	11.5

図14 電子部品・デバイス工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ク 輸送機械工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、115.7で前年比3.5%、出荷指数は116.0で同4.3%、在庫指数は165.2で同85.8%それぞれ上昇した(表2.2)。

生産指数及び出荷指数は3年連続、在庫指数は2年連続でそれぞれ上昇した。

品目別でみると、生産は、ワイパー、自動車用ポンプ類、自動車用オイルシールなど5品目が上昇し、自転車部品、自転車、自動車用ブレーキシューなど5品目が低下した。

出荷は、ワイパー、自動車用ポンプ類、自動車用オイルシールなど5品目が上昇し、自転車部品、自転車、自動車用ブレーキシューなど5品目が低下した。

在庫は、自転車が上昇し、自転車部品が低下した。

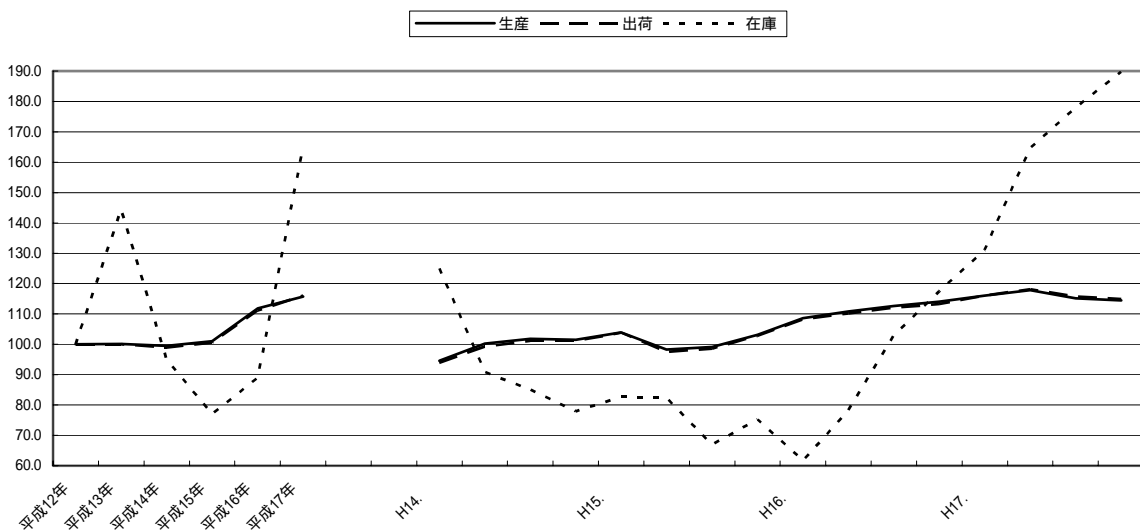
表2.2 輸送機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	100.2	99.5	101.0	111.8	115.7
前年比(%)	0.2	0.7	1.5	10.7	3.5
出荷	100.0	98.9	100.6	111.2	116.0
前年比(%)	0.0	1.1	1.7	10.5	4.3
在庫	144.4	94.9	77.0	88.9	165.2
前年比(%)	44.4	34.3	18.9	15.5	85.8

表2.3 輸送機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	103.9	98.3	99.1	103.2	108.6	110.8	112.6	114.1	116.1	117.8	115.2	114.5
前期比(%)	2.4	5.4	0.8	4.1	5.2	2.0	1.6	1.3	1.8	1.5	2.2	0.6
出荷	103.8	97.5	98.6	102.8	108.3	110.2	112.0	113.3	116.1	118.2	115.7	114.9
前期比(%)	2.6	6.1	1.1	4.3	5.4	1.8	1.6	1.2	2.5	1.8	2.1	0.7
在庫	82.7	82.3	66.9	75.2	61.7	78.4	102.8	117.5	131.1	164.6	178.0	189.8
前期比(%)	6.2	0.5	18.7	12.4	18.0	27.1	31.1	14.3	11.6	25.6	8.1	6.6

図15 輸送機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ケ 精密機械工業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、76.5で前年比 3.3%、出荷指数は78.0で同 5.3%、在庫指数は89.1で同 15.1%それぞれ低下した（表24）

生産指数は4年連続、出荷指数は2年連続、在庫指数は3年連続でそれぞれ低下した。品目別で見ると、生産は、カメラ用交換レンズ、分析機器、ガスメータの3品目が上昇し、精密測定器、携帯時計側、医療用具機械など4品目が低下した。

出荷は、カメラ用交換レンズ、分析機器、ガスメータの3品目が上昇し、精密測定器、携帯時計側、医療用具機械など4品目が低下した。

在庫は、分析機器、カメラ用交換レンズ、ガスメータなど4品目が低下した。

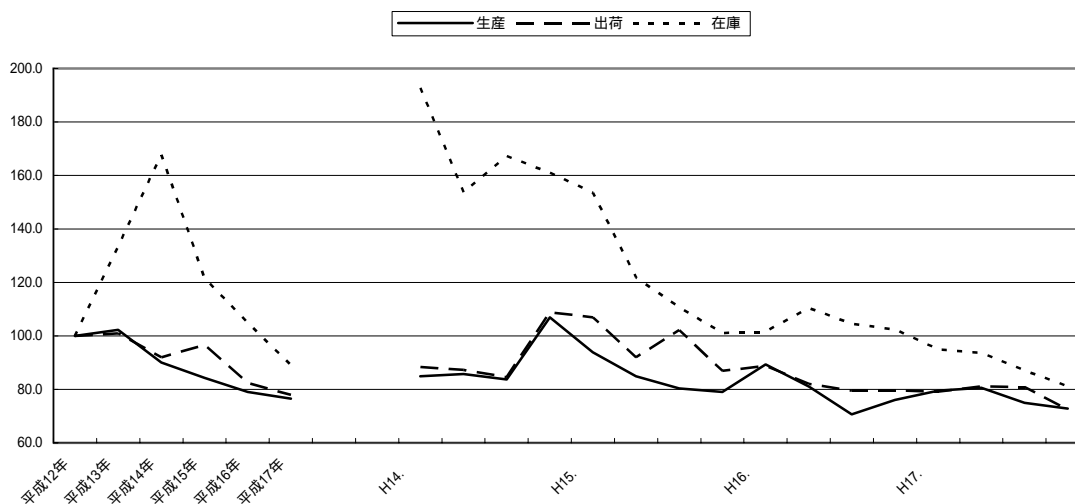
表24 精密機械工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	102.3	90.1	84.3	79.1	76.5
前年比(%)	2.3	11.9	6.4	6.2	3.3
出荷	100.9	92.0	96.7	82.4	78.0
前年比(%)	0.9	8.8	5.1	14.8	5.3
在庫	133.4	167.7	121.5	104.9	89.1
前年比(%)	33.4	25.7	27.5	13.7	15.1

表25 精密機械工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	93.9	84.9	80.3	79.0	89.3	81.1	70.6	76.1	79.5	80.6	75.0	72.8
前期比(%)	12.2	9.6	5.4	1.6	13.0	9.2	12.9	7.8	4.5	1.4	6.9	2.9
出荷	107.0	92.0	102.1	87.0	88.8	82.0	79.5	79.7	79.2	81.1	80.8	72.4
前期比(%)	1.7	14.0	11.0	14.8	2.1	7.7	3.0	0.3	0.6	2.4	0.4	10.4
在庫	153.5	121.8	110.7	101.1	101.5	110.4	104.5	102.4	95.0	93.6	87.1	81.1
前期比(%)	4.7	20.7	9.1	8.7	0.4	8.8	5.3	2.0	7.2	1.5	6.9	6.9

図16 精密機械工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



コ 窯業・土石製品工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、90.7で前年比 1.4%、出荷指数は93.0で同 3.7%それぞれ低下し、在庫指数は104.6で同12.8%上昇した(表26)。

生産指数は3年ぶりに低下し、出荷指数は2年連続で低下し、在庫指数は2年ぶりに上昇した。

品目別でみると、生産は、プレストレストコンクリート製品、護岸用コンクリートブロック、ガラス短繊維など10品目が上昇し、ファインセラミックス、木材セメント板、ガラス製容器類など8品目が低下した。

出荷は、プレストレストコンクリート製品、電気用陶磁器、護岸用コンクリートブロックなど10品目が上昇し、ファインセラミックス、遠心力鉄筋コンクリート管、木材セメント板など8品目が低下した。

在庫は、プレストレストコンクリート製品、不定型耐火物、ガラス短繊維など8品目が上昇し、ファインセラミックス、耐火れんが、道路用コンクリート製品など9品目が低下した。

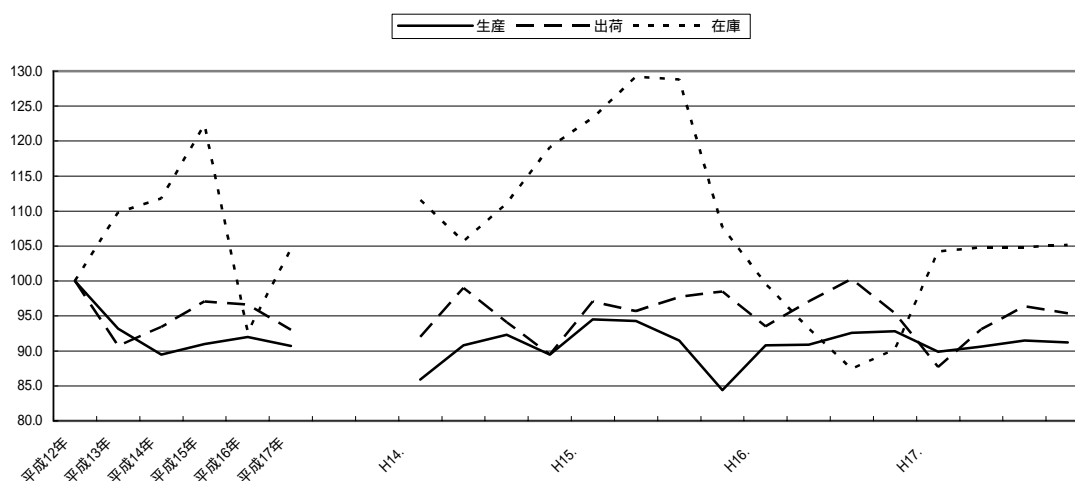
表26 窯業・土石製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	93.2	89.5	91.0	92.0	90.7
前年比(%)	6.8	4.0	1.7	1.1	1.4
出荷	90.7	93.4	97.1	96.6	93.0
前年比(%)	9.3	3.0	4.0	0.5	3.7
在庫	109.8	111.8	122.3	92.7	104.6
前年比(%)	9.8	1.8	9.4	24.2	12.8

表27 窯業・土石製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	94.5	94.3	91.5	84.4	90.8	90.9	92.6	92.8	89.9	90.6	91.5	91.2
前期比(%)	5.6	0.2	3.0	7.8	7.6	0.1	1.9	0.2	3.1	0.8	1.0	0.3
出荷	97.1	95.7	97.7	98.5	93.5	97.1	100.3	95.4	87.7	93.1	96.4	95.4
前期比(%)	8.5	1.4	2.1	0.8	5.1	3.9	3.3	4.9	8.1	6.2	3.5	1.0
在庫	123.3	129.2	128.8	107.7	99.6	93.2	87.4	90.2	104.2	104.8	104.8	105.2
前期比(%)	3.5	4.8	0.3	16.4	7.5	6.4	6.2	3.2	15.5	0.6	0.0	0.4

図17 窯業・土石製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12=100.0)



サ 化学工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、93.1で前年比 5.0%、出荷指数は87.9で同 8.3%それぞれ低下し、在庫指数は134.9で同11.0%上昇した(表28)。

生産指数は2年連続で低下し、出荷指数は3年ぶりに低下し、在庫指数は2年ぶりに上昇した。

品目別で見ると、生産は、フェノール樹脂、活性炭、ホルマリンなど10品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、医薬品、塩化メチルなど16品目が低下した。

出荷は、フェノール樹脂、ふっ素樹脂、ホルマリンなど10品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、塩素、動物用医薬品など16品目が低下した。

在庫は、クロルベンゼン、硫酸、過酸化水素など10品目が上昇し、塩化ビニル樹脂、産業用火薬類、塩化ビニリデン樹脂など12品目が低下した。

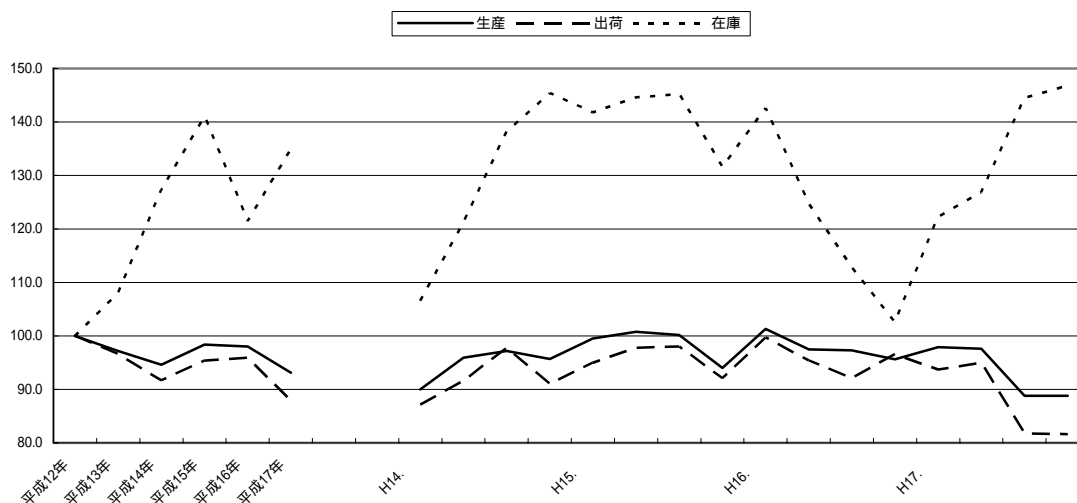
表28 化学工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	97.2	94.6	98.4	98.0	93.1
前年比(%)	2.8	2.7	4.0	0.4	5.0
出荷	96.6	91.7	95.4	95.9	87.9
前年比(%)	3.4	5.1	4.0	0.5	8.3
在庫	108.0	127.3	141.0	121.5	134.9
前年比(%)	8.0	17.9	10.8	13.8	11.0

表29 化学工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	99.5	100.8	100.2	94.0	101.3	97.5	97.3	95.6	97.9	97.6	88.8	88.8
前期比(%)	4.0	1.3	0.6	6.2	7.8	3.8	0.2	1.7	2.4	0.3	9.0	0.0
出荷	95.0	97.8	98.0	92.1	99.7	95.4	92.1	96.6	93.7	95.0	81.8	81.6
前期比(%)	4.4	2.9	0.2	6.0	8.3	4.3	3.5	4.9	3.0	1.4	13.9	0.2
在庫	141.8	144.6	145.2	131.6	142.6	124.7	112.8	102.6	122.3	126.8	144.5	146.8
前期比(%)	2.5	2.0	0.4	9.4	8.4	12.6	9.5	9.0	19.2	3.7	14.0	1.6

図18 化学工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



シ プラスチック製品工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、111.6で前年比4.6%、出荷指数は123.7で同1.9%それぞれ上昇、在庫指数は170.4で同0.5%低下した(表30)。

生産指数は2年連続で上昇し、出荷指数は4年連続で上昇し、在庫指数は4年ぶりに低下した。

品目別で見ると、生産は、ウレタンフォーム、プラスチック製日用品・雑貨、発泡製品など5品目が上昇し、プラスチック製容器、強化製品の2品目が低下した。

出荷は、ウレタンフォーム、発泡製品、プラスチック製フィルムなど5品目が上昇し、プラスチック製容器、強化製品の2品目が低下した。

在庫は、強化製品、ウレタンフォームの2品目が上昇し、プラスチック製容器、プラスチック製日用品・雑貨、プラスチック製機械器具部品など4品目が低下した。

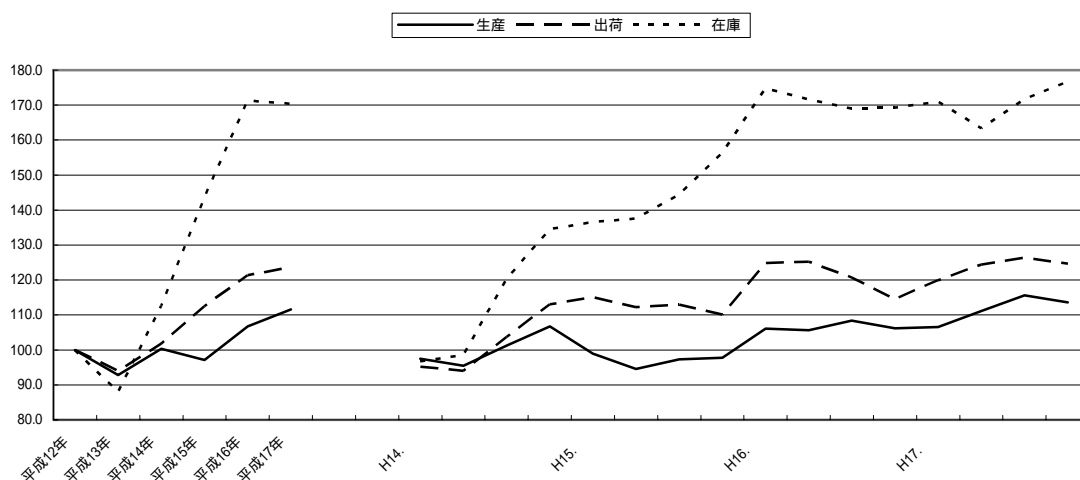
表30 プラスチック製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	92.8	100.3	97.1	106.7	111.6
前年比(%)	7.2	8.1	3.2	9.9	4.6
出荷	94.0	101.8	112.5	121.4	123.7
前年比(%)	6.0	8.3	10.5	7.9	1.9
在庫	88.0	112.6	143.6	171.3	170.4
前年比(%)	12.0	28.0	27.5	19.3	0.5

表31 プラスチック製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	99.0	94.6	97.3	97.8	106.1	105.6	108.4	106.2	106.6	111.1	115.6	113.6
前期比(%)	7.2	4.4	2.9	0.5	8.5	0.5	2.7	2.0	0.4	4.2	4.1	1.7
出荷	115.1	112.2	113.0	110.1	124.9	125.2	120.7	114.5	119.9	124.4	126.4	124.7
前期比(%)	1.8	2.5	0.7	2.6	13.4	0.2	3.6	5.1	4.7	3.8	1.6	1.3
在庫	136.6	137.6	144.5	156.4	174.8	171.7	169.0	169.3	170.9	163.3	171.7	176.7
前期比(%)	1.5	0.7	5.0	8.2	11.8	1.8	1.6	0.2	0.9	4.4	5.1	2.9

図19 プラスチック製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ス パルプ・紙・紙加工品工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、114.2で前年比5.3%、出荷指数は116.6で同4.9%それぞれ上昇し、在庫指数は105.8で同10.6%低下した(表32)。

生産指数は7年連続で上昇し、出荷指数は8年連続で上昇し、在庫指数は7年ぶりに低下した。

品目別でみると、生産は、塗工紙、雑板紙、段ボール原紙など6品目が上昇し、情報用紙、段ボールシートの2品目が低下した。

出荷は、雑板紙、塗工紙、新聞巻取紙など5品目が上昇し、情報用紙、段ボールシート、雑種紙の3品目が低下した。

在庫は、雑種紙、段ボール箱、段ボール原紙の3品目が上昇し、雑板紙、塗工紙、段ボールシートの3品目が低下した。

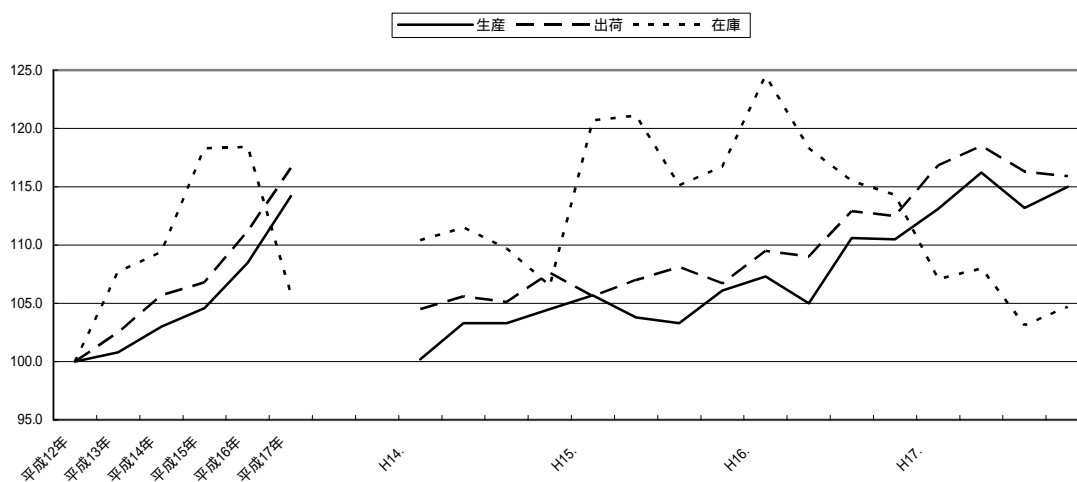
表32 パルプ・紙・紙加工品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	100.8	103.0	104.6	108.5	114.2
前年比(%)	0.8	2.2	1.6	3.7	5.3
出荷	102.5	105.7	106.8	111.2	116.6
前年比(%)	2.5	3.1	1.0	4.1	4.9
在庫	107.7	109.4	118.3	118.4	105.8
前年比(%)	7.7	1.6	8.1	0.1	10.6

表33 パルプ・紙・紙加工品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	105.7	103.8	103.3	106.1	107.3	105.0	110.6	110.5	113.1	116.2	113.2	115.0
前期比(%)	1.1	1.8	0.5	2.7	1.1	2.1	5.3	0.1	2.4	2.7	2.6	1.6
出荷	105.6	107.0	108.1	106.7	109.5	109.0	112.9	112.5	116.8	118.5	116.3	115.9
前期比(%)	1.9	1.3	1.0	1.3	2.6	0.5	3.6	0.4	3.8	1.5	1.9	0.3
在庫	120.7	121.1	115.1	116.7	124.5	118.3	115.5	114.3	107.1	108.0	103.1	104.7
前期比(%)	13.3	0.3	5.0	1.4	6.7	5.0	2.4	1.0	6.3	0.8	4.5	1.6

図20 パルプ・紙・紙加工品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



セ 繊維工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、70.8で前年比9.2%、出荷指数は70.8で同10.3%、在庫指数は98.0で同6.9%それぞれ低下した(表34)。

生産指数及び出荷指数は8年連続で低下し、在庫指数は2年連続で低下した。

品目別で見ると、生産は、ニット製靴下が上昇し、織物製補整着、ニット製外衣、ふとんなど9品目が低下した。

出荷は、ニット製靴下が上昇し、織物製補整着、ふとん、ニット製外衣など9品目が低下した。

在庫は、ニット製靴下、ふとん、染色整理など4品目が上昇し、織物製補整着、絹・絹紡織物、ニット製外衣など5品目が低下した。

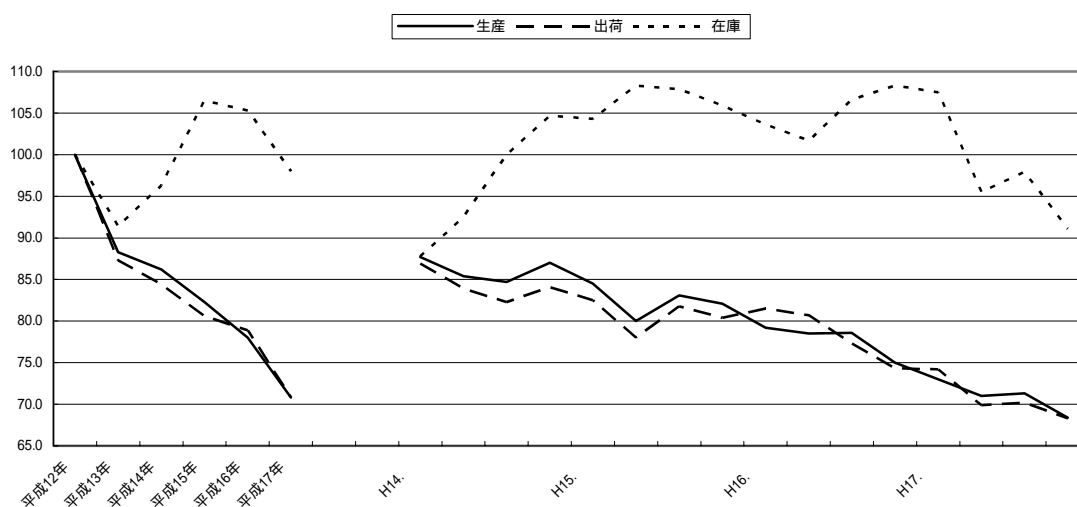
表34 繊維工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	88.3	86.2	82.3	78.0	70.8
前年比(%)	11.7	2.4	4.5	5.2	9.2
出荷	87.3	84.4	80.6	78.9	70.8
前年比(%)	12.7	3.3	4.5	2.1	10.3
在庫	91.4	96.3	106.5	105.3	98.0
前年比(%)	8.6	5.4	10.6	1.1	6.9

表35 繊維工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	84.5	80.0	83.1	82.1	79.2	78.5	78.6	75.0	73.0	71.0	71.3	68.4
前期比(%)	2.9	5.3	3.9	1.2	3.5	0.9	0.1	4.6	2.7	2.7	0.4	4.1
出荷	82.5	78.0	81.8	80.4	81.5	80.7	77.3	74.3	74.2	69.9	70.2	68.3
前期比(%)	1.9	5.5	4.9	1.7	1.4	1.0	4.2	3.9	0.1	5.8	0.4	2.7
在庫	104.3	108.3	107.9	105.9	103.6	101.7	106.6	108.3	107.5	95.5	97.9	91.1
前期比(%)	0.4	3.8	0.4	1.9	2.2	1.8	4.8	1.6	0.7	11.2	2.5	6.9

図21 繊維工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ソ 食料品・たばこ工業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、94.1で前年比 1.2%、出荷指数は97.7で同 0.1%、在庫指数は119.6で同 1.4%それぞれ低下した（表36）。

生産指数及び出荷指数は4年連続で低下し、在庫指数は2年連続で低下した。

品目別で見ると、生産は、肉製品、果実缶詰、乳酸菌飲料など11品目が上昇し、豆腐・油揚げ、配合飼料、焼酎など14品目が低下した。

出荷は、肉製品、果実缶詰、乳酸菌飲料など10品目が上昇し、豆腐・油揚げ、配合飼料、焼酎など15品目が低下した。

在庫は、肉製品、練乳・粉乳、醤油など4製品が上昇し、配合飼料、ビール、焼酎など7品目が低下した。

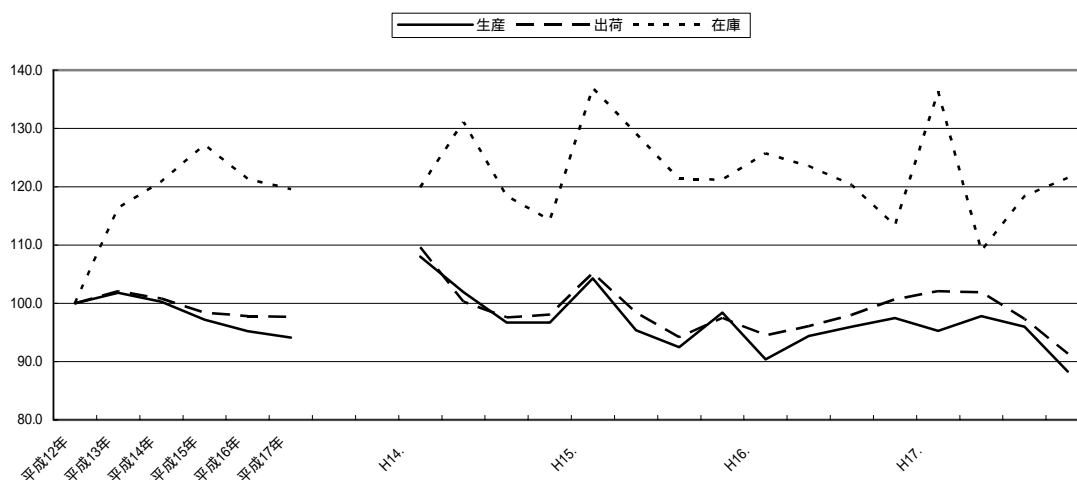
表36 食料品・たばこ工業年別指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	101.8	100.3	97.2	95.2	94.1
前年比(%)	1.8	1.5	3.1	2.1	1.2
出荷	102.1	100.8	98.4	97.8	97.7
前年比(%)	2.1	1.3	2.4	0.6	0.1
在庫	116.4	120.9	127.2	121.3	119.6
前年比(%)	16.4	3.9	5.2	4.6	1.4

表37 食料品・たばこ工業四半期別指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	104.3	95.4	92.5	98.4	90.4	94.4	96.0	97.5	95.3	97.8	96.0	88.3
前期比(%)	7.9	8.5	3.0	6.4	8.1	4.4	1.7	1.6	2.3	2.6	1.8	8.0
出荷	105.2	98.4	94.2	97.5	94.5	96.1	98.0	100.7	102.1	101.9	97.3	91.4
前期比(%)	7.2	6.5	4.3	3.5	3.1	1.7	2.0	2.8	1.4	0.2	4.5	6.1
在庫	137.0	129.1	121.3	121.2	125.7	123.5	120.3	113.4	136.3	109.0	118.4	121.5
前期比(%)	19.9	5.8	6.0	0.1	3.7	1.8	2.6	5.7	20.2	20.0	8.6	2.6

図22 食料品・たばこ工業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）指数の推移（平成12年=100.0）



タ ゴム、皮革製品工業

平成17年の生産指数(原指数年平均)は、109.7で前年比2.1%、出荷指数は131.5で同1.5%、在庫指数は88.5で同6.1%それぞれ上昇した(表38)。

生産指数は4年連続で上昇し、出荷指数は3年連続で上昇し、在庫指数は3年ぶりに上昇した。

品目別でみると、生産は、ゴム製履物、革靴、工業用ゴム製品など4品目が上昇した。

出荷は、ゴム製履物、革靴、工業用ゴム製品など4品目が上昇した。

在庫は、ゴム製履物、工業用ゴム製品の2品目が上昇し、革靴、自動車用タイヤの2品目が低下した。

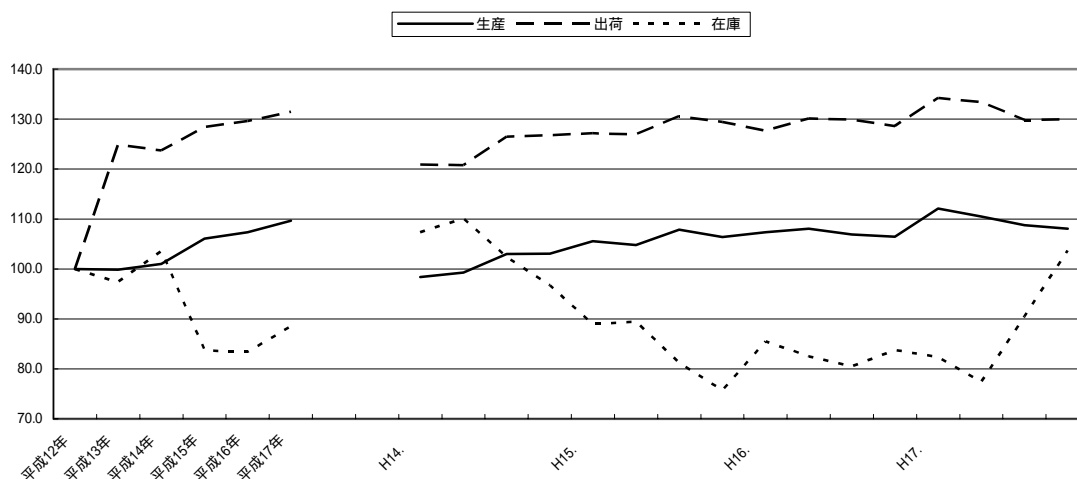
表38 ゴム、皮革製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	99.9	101.0	106.1	107.4	109.7
前年比(%)	0.1	1.1	5.0	1.2	2.1
出荷	124.9	123.7	128.4	129.6	131.5
前年比(%)	24.9	1.0	3.8	0.9	1.5
在庫	97.4	103.6	83.7	83.4	88.5
前年比(%)	2.6	6.4	19.2	0.4	6.1

表39 ゴム、皮革製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	105.6	104.8	107.9	106.4	107.4	108.1	106.9	106.5	112.1	110.5	108.8	108.1
前期比(%)	2.4	0.8	3.0	1.4	0.9	0.7	1.1	0.4	5.3	1.4	1.5	0.6
出荷	127.2	126.9	130.6	129.4	127.7	130.1	129.9	128.6	134.2	133.4	129.8	130.0
前期比(%)	0.3	0.2	2.9	0.9	1.3	1.9	0.2	1.0	4.4	0.6	2.7	0.2
在庫	89.0	89.5	81.2	75.7	85.5	82.5	80.5	83.8	82.4	77.4	90.5	103.7
前期比(%)	8.0	0.6	9.3	6.8	12.9	3.5	2.4	4.1	1.7	6.1	16.9	14.6

図23 ゴム、皮革製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



チ 木材・木製品工業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、59.9で前年比 6.1%、出荷指数は60.8で同 5.1%、在庫指数は103.9で同 1.1%それぞれ低下した（表40）。

生産指数は5年連続で低下し、出荷指数は2年連続で低下し、在庫指数は3年連続で低下した。

品目別でみると、生産は、繊維板が上昇し、一般製材、パーティクルボードの2品目が低下した。

出荷は、一般製材、パーティクルボード、繊維板の3品目が低下した。

在庫は、パーティクルボード、繊維板の2品目が上昇し、一般製材が低下した。

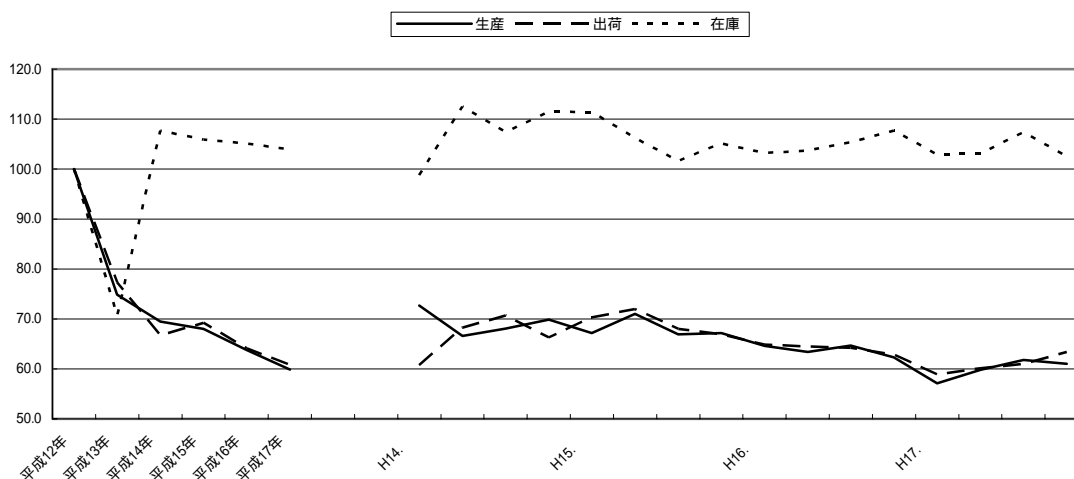
表40 木材・木製品工業年別指数の推移（原指数 平成12年=100.0）

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	74.9	69.5	68.0	63.8	59.9
前年比(%)	25.1	7.2	2.2	6.2	6.1
出荷	77.3	66.7	69.2	64.1	60.8
前年比(%)	22.7	13.7	3.7	7.4	5.1
在庫	70.7	107.7	105.9	105.1	103.9
前年比(%)	29.3	52.3	1.7	0.8	1.1

表41 木材・木製品工業四半期別指数の推移（季節調整済指数 平成12年=100.0）

	平成15年				平成16年				平成17年			
	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)	前期比(%)
生産	67.2	71.0	66.9	67.2	64.6	63.4	64.7	62.3	57.1	59.8	61.8	61.0
前期比(%)	3.9	5.7	5.8	0.4	3.9	1.9	2.1	3.7	8.3	4.7	3.3	1.3
出荷	70.3	72.0	68.0	66.9	64.9	64.5	64.2	62.8	58.9	60.1	61.0	63.4
前期比(%)	6.0	2.4	5.6	1.6	3.0	0.6	0.5	2.2	6.2	2.0	1.5	3.9
在庫	111.4	106.2	101.6	105.1	103.2	103.7	105.4	107.7	102.9	103.1	107.4	102.5
前期比(%)	0.1	4.7	4.3	3.4	1.8	0.5	1.6	2.2	4.5	0.2	4.2	4.6

図24 木材・木製品工業年別（原指数）・四半期別（季節調整済指数）指数の推移（平成12年=100.0）



ツ その他製品工業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、95.2で前年比2.8%、出荷指数は93.7で同2.3%、在庫指数は92.4で同2.2%それぞれ上昇した（表42）。

生産指数及び出荷指数は3年ぶりに上昇し、在庫指数は2年連続で上昇した。品目別でみると、生産は、ペン、玩具、印刷物の3品目が上昇し、台所用金属製家具が低下した。

出荷は、ペン、玩具、印刷物の3品目が上昇し、台所用金属製家具が低下した。

在庫は、台所用金属製家具、玩具の2品目が上昇した。

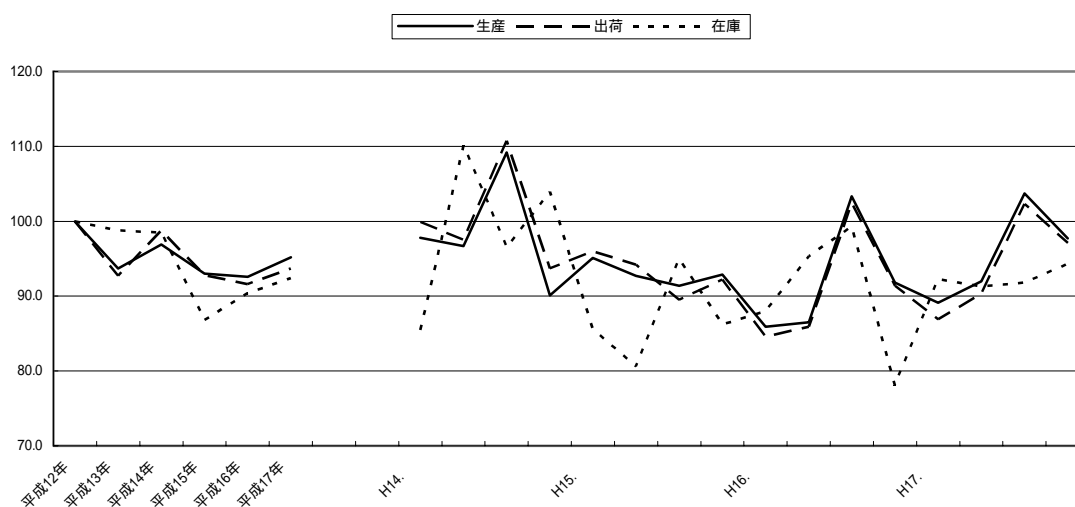
表42 その他製品工業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	93.7	96.9	93.0	92.6	95.2
前年比(%)	6.3	3.4	4.0	0.4	2.8
出荷	92.7	98.8	92.8	91.6	93.7
前年比(%)	7.3	6.6	6.1	1.3	2.3
在庫	98.8	98.5	86.8	90.4	92.4
前年比(%)	1.2	0.3	11.9	4.1	2.2

表43 その他製品工業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	95.1	92.7	91.4	92.9	85.9	86.5	103.3	91.8	89.1	92.0	103.7	97.7
前期比(%)	5.5	2.5	1.4	1.6	7.5	0.7	19.4	11.1	2.9	3.3	12.7	5.8
出荷	96.0	94.2	89.5	92.2	84.6	85.9	102.4	91.4	86.9	90.3	102.3	97.1
前期比(%)	2.5	1.9	5.0	3.0	8.2	1.5	19.2	10.7	4.9	3.9	13.3	5.1
在庫	85.6	80.6	95.0	86.2	88.0	95.3	99.3	78.1	92.3	91.3	91.8	94.3
前期比(%)	17.6	5.8	17.9	9.3	2.1	8.3	4.2	21.3	18.2	1.1	0.5	2.7

図25 その他製品工業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



テ 鋳業

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、90.0で前年比 1.4%、出荷指数は90.4で同 1.0%それぞれ低下し、在庫指数は58.5で同 40.0%上昇した（表44）。

生産指数及び出荷指数は2年連続で低下し、在庫指数は3年連続で上昇した。品目別で見ると、生産は、原油、けい砂、石灰石の3品目が上昇し、天然ガスが低下した。

出荷は、原油、けい砂の2品目が上昇し、天然ガス、石灰石の2品目が低下した。

在庫は、けい砂、原油の2品目が上昇し、石灰石が低下した。

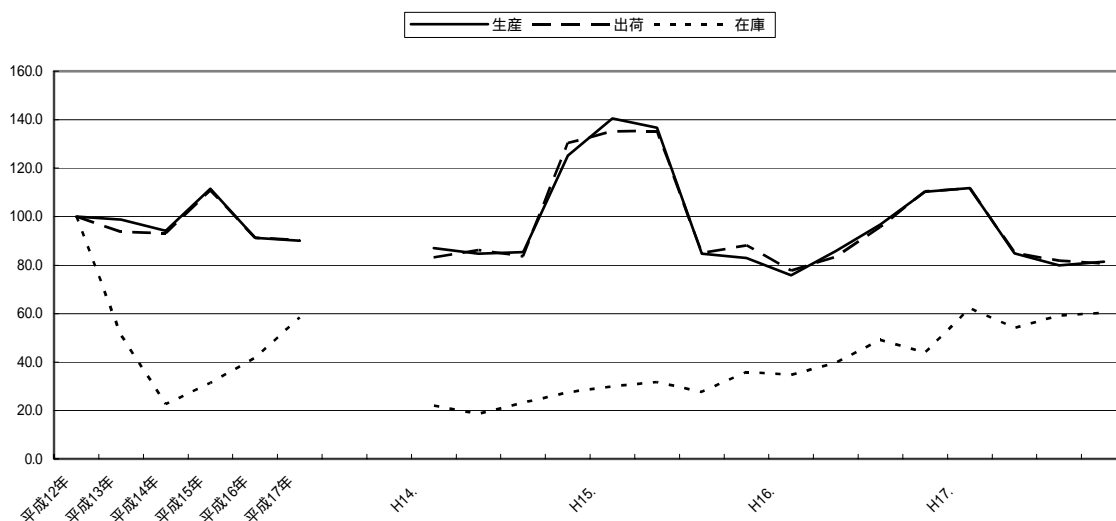
表44 鋳業年別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
生産	98.8	94.1	111.5	91.3	90.0
前年比(%)	1.2	4.8	18.5	18.1	1.4
出荷	93.8	93.2	110.8	91.3	90.4
前年比(%)	6.2	0.6	18.9	17.6	1.0
在庫	51.0	22.6	31.4	41.8	58.5
前年比(%)	49.0	55.7	38.9	33.1	40.0

表45 鋳業四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
生産	140.5	136.8	84.7	82.9	75.8	85.8	96.7	110.3	111.8	84.8	79.9	81.4
前期比(%)	12.2	2.6	38.1	2.1	8.6	13.2	12.7	14.1	1.4	24.2	5.8	1.9
出荷	135.2	135.4	85.0	88.1	77.7	83.5	95.7	110.4	111.7	85.0	81.9	80.6
前期比(%)	3.6	0.1	37.2	3.6	11.8	7.5	14.6	15.4	1.2	23.9	3.6	1.6
在庫	30.0	31.7	27.6	35.8	34.8	39.7	49.2	43.9	62.2	54.0	59.2	60.4
前期比(%)	9.1	5.7	12.9	29.7	2.8	14.1	23.9	10.8	41.7	13.2	9.6	2.0

図26 鋳業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



(3) 財別の動向

ア 概況

平成17年の財別生産指数（原指数年平均）は、最終需要財 94.5 で前年比 3.7%、生産財 112.7 で同 4.2%それぞれ上昇した（表46）。

出荷指数（原指数年平均）は、最終需要財 100.8 で前年比 5.2%、生産財 120.0 で同 5.1%それぞれ上昇した。

在庫指数（原指数年平均）は、最終需要財 104.5 で前年比 2.0%、生産財 156.2 で同 4.1%それぞれ上昇した。

最終需要財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数及び出荷指数は平成16年 期から上昇した後、平成17年 期で6期ぶりに低下した。在庫指数は、平成17年 期で2期ぶりに上昇し、 期で大きく低下したが、 期、 期で上昇した（表47）。

生産財（季節調整済指数）の生産指数及び出荷指数は、平成17年 期から4期連続で上昇した。在庫指数は、平成17年 期で3期ぶりに上昇し、 期で低下した後、 期、 期で上昇した（表48）。

表46 財別指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

		最終需要財														生産財	
		投資財								消費財						年平均 指数	前年比 (%)
		資本財				建設財				耐久消費財		非耐久消費財					
年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)	年平均 指数	前年比 (%)
生 産	平成13年	94.7	5.3	93.9	6.2	98.1	1.9	88.3	11.7	95.1	4.9	86.3	13.7	98.3	1.7	93.0	7.0
	平成14年	90.4	4.5	88.2	6.0	98.3	0.2	75.0	15.0	91.5	3.8	84.4	2.2	94.2	4.2	95.8	3.0
	平成15年	90.6	0.2	89.8	1.8	98.6	0.3	78.5	4.7	91.0	0.5	83.2	1.4	93.9	0.3	99.6	4.0
	平成16年	91.1	0.6	96.1	7.0	109.5	11.1	78.8	0.4	88.5	2.7	77.1	7.3	92.7	1.3	108.2	8.6
	平成17年	94.5	3.7	108.8	13.2	130.9	19.5	80.1	1.6	87.2	1.5	80.8	4.8	89.5	3.5	112.7	4.2
出 荷	平成13年	95.4	4.6	95.5	4.5	99.8	0.2	87.6	12.4	95.4	4.6	87.4	12.6	98.7	1.3	92.5	7.5
	平成14年	92.0	3.6	91.0	4.7	101.2	1.4	72.3	17.5	92.6	2.9	88.0	0.7	94.5	4.3	96.9	4.8
	平成15年	95.1	3.4	97.3	6.9	107.5	6.2	78.7	8.9	93.8	1.3	92.0	4.5	94.5	0.0	103.5	6.8
	平成16年	95.8	0.7	101.6	4.4	114.1	6.1	78.8	0.1	92.5	1.4	87.5	4.9	94.6	0.1	114.2	10.3
	平成17年	100.8	5.2	118.1	16.2	138.7	21.6	80.5	2.2	90.9	1.7	88.4	1.0	92.0	2.7	120.0	5.1
在 庫	平成13年	108.6	8.6	109.6	9.6	149.3	49.3	86.1	13.9	108.1	8.1	100.7	0.7	113.0	13.0	125.3	25.3
	平成14年	109.1	0.4	108.4	1.1	138.4	7.3	90.5	5.1	109.5	1.3	99.2	1.5	116.2	2.8	125.6	0.2
	平成15年	103.5	5.1	93.4	13.8	103.7	25.1	87.2	3.6	108.4	1.0	87.3	12.0	122.4	5.3	144.2	14.8
	平成16年	102.5	1.0	97.4	4.3	121.9	17.6	83.0	4.8	104.9	3.2	85.9	1.6	117.4	4.1	150.0	4.0
	平成17年	104.5	2.0	86.9	10.8	92.5	24.1	83.7	0.8	113.2	7.9	109.3	27.2	115.7	1.4	156.2	4.1

表47 最終需要財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生 産	93.1	89.2	89.5	91.4	91.0	89.2	91.7	91.7	92.3	94.3	97.1	95.0
前期比(%)	2.9	4.2	0.3	2.1	0.4	2.0	2.8	0.0	0.7	2.2	3.0	2.2
出 荷	95.4	94.3	96.1	95.1	95.6	94.0	96.3	96.7	98.2	100.1	104.2	101.4
前期比(%)	1.7	1.2	1.9	1.0	0.5	1.7	2.4	0.4	1.6	1.9	4.1	2.7
在 庫	106.9	109.7	103.1	95.0	98.0	103.4	104.0	103.4	111.0	98.1	103.9	107.0
前期比(%)	5.9	2.6	6.0	7.9	3.2	5.5	0.6	0.6	7.4	11.6	5.9	3.0

図27 最終需要財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

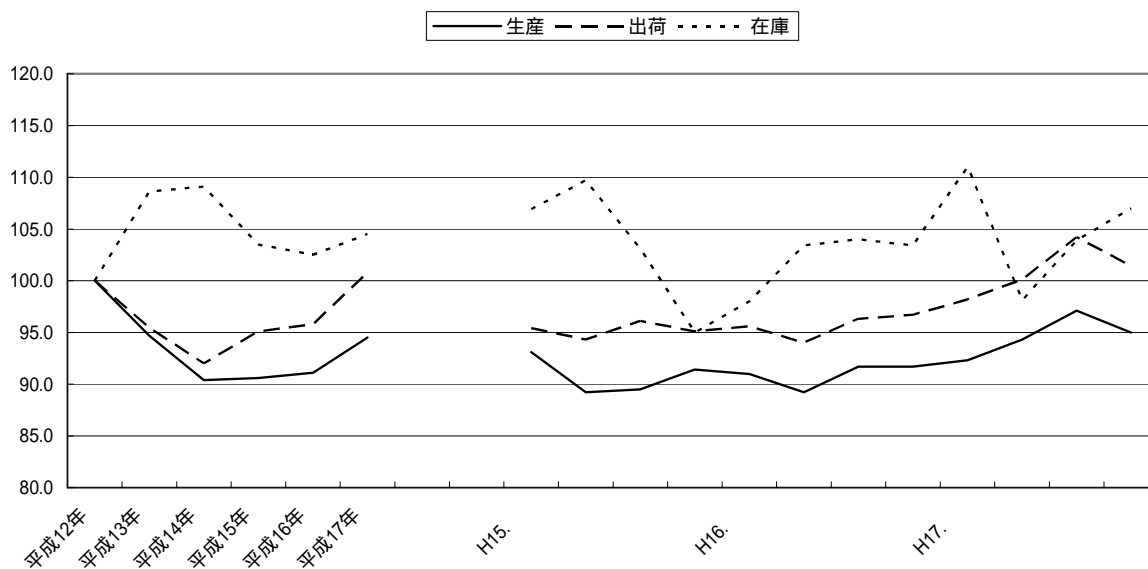
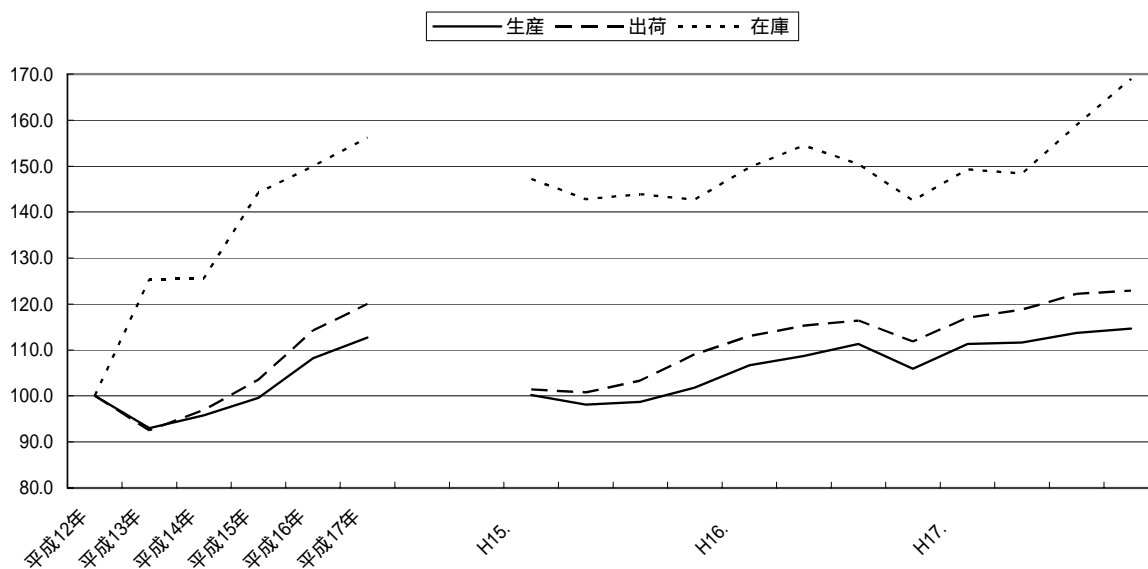


表48 生産財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	100.2	98.1	98.7	101.8	106.7	108.7	111.3	105.9	111.3	111.6	113.7	114.7
前期比(%)	2.1	2.1	0.6	3.1	4.8	1.9	2.4	4.9	5.1	0.3	1.9	0.9
出荷	101.4	100.8	103.3	109.0	113.0	115.3	116.4	111.8	117.0	118.8	122.2	122.9
前期比(%)	1.6	0.6	2.5	5.5	3.7	2.0	1.0	4.0	4.7	1.5	2.9	0.6
在庫	147.2	142.8	143.9	142.7	149.7	154.5	150.4	142.5	149.3	148.4	158.9	169.0
前期比(%)	5.0	3.0	0.8	0.8	4.9	3.2	2.7	5.3	4.8	0.6	7.1	6.4

図28 生産財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



イ 投資財

平成17年の投資財の生産指数(原指数年平均)は、資本財が130.9で前年比19.5%、建設財が80.1で同1.6%それぞれ上昇し、全体として108.8となり同13.2%の上昇となった(表46)。

出荷指数(原指数年平均)は、資本財が138.7で前年比21.6%、建設財が80.5で同2.2%それぞれ上昇し、全体として118.1となり同16.2%の上昇となった。

在庫指数(原指数年平均)は、資本財が92.5で前年比24.1%低下し、建設財が83.7で同0.8%上昇し、全体として86.9となり同10.8%の低下となった。

投資財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数及び出荷指数は、平成17年1期から4期連続で上昇した。在庫指数は、平成17年1期で低下した後、2期で上昇し、3期で低下した(表49)。

表49 投資財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	87.0	86.9	92.9	93.1	93.8	97.3	98.3	95.0	97.2	106.3	114.2	118.3
前期比(%)	3.7	0.1	6.9	0.2	0.8	3.7	1.0	3.4	2.3	9.4	7.4	3.6
出荷	92.4	95.2	101.9	100.3	99.7	103.1	103.1	100.4	104.0	114.4	127.1	128.2
前期比(%)	3.9	3.0	7.0	1.6	0.6	3.4	0.0	2.6	3.6	10.0	11.1	0.9
在庫	103.8	92.7	93.2	84.8	87.5	99.1	100.5	101.7	90.3	83.5	90.0	84.3
前期比(%)	6.9	10.7	0.5	9.0	3.2	13.3	1.4	1.2	11.2	7.5	7.8	6.3

図29 投資財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

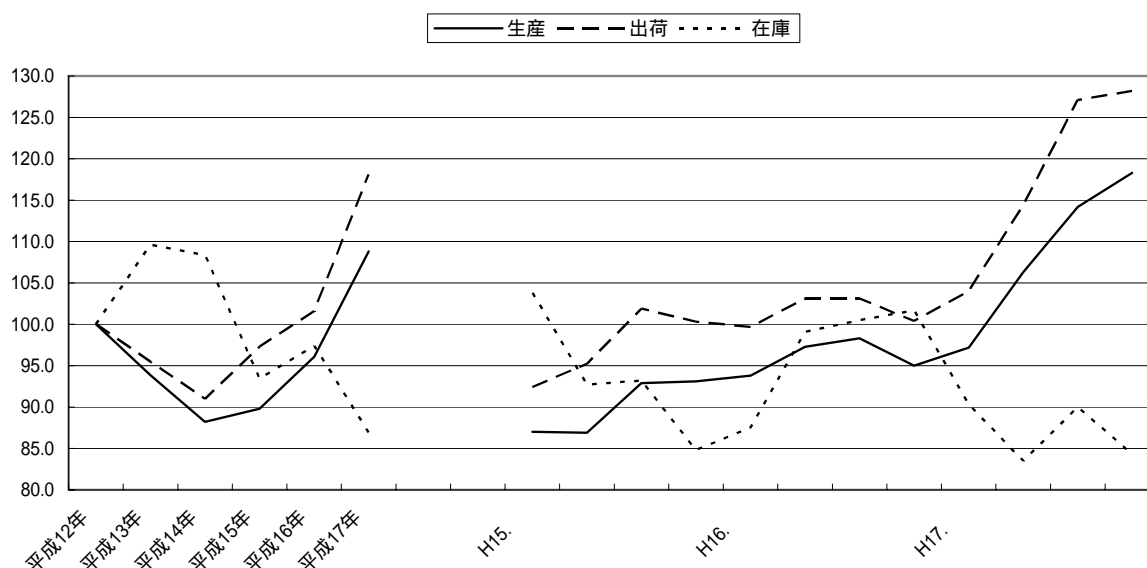


表50 資本財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	94.9	91.9	102.8	105.3	105.2	111.1	112.1	108.9	113.6	126.5	139.1	146.3
前期比(%)	8.1	3.2	11.9	2.4	0.1	5.6	0.9	2.9	4.3	11.4	10.0	5.2
出荷	100.5	103.4	113.6	113.7	109.5	115.3	115.4	115.2	119.7	131.6	152.2	153.9
前期比(%)	8.5	2.9	9.9	0.1	3.7	5.3	0.1	0.2	3.9	9.9	15.7	1.1
在庫	120.9	96.4	101.3	98.4	103.6	127.3	120.8	137.6	98.5	84.5	98.0	88.3
前期比(%)	18.8	20.3	5.1	2.9	5.3	22.9	5.1	13.9	28.4	14.2	16.0	9.9

図30 資本財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

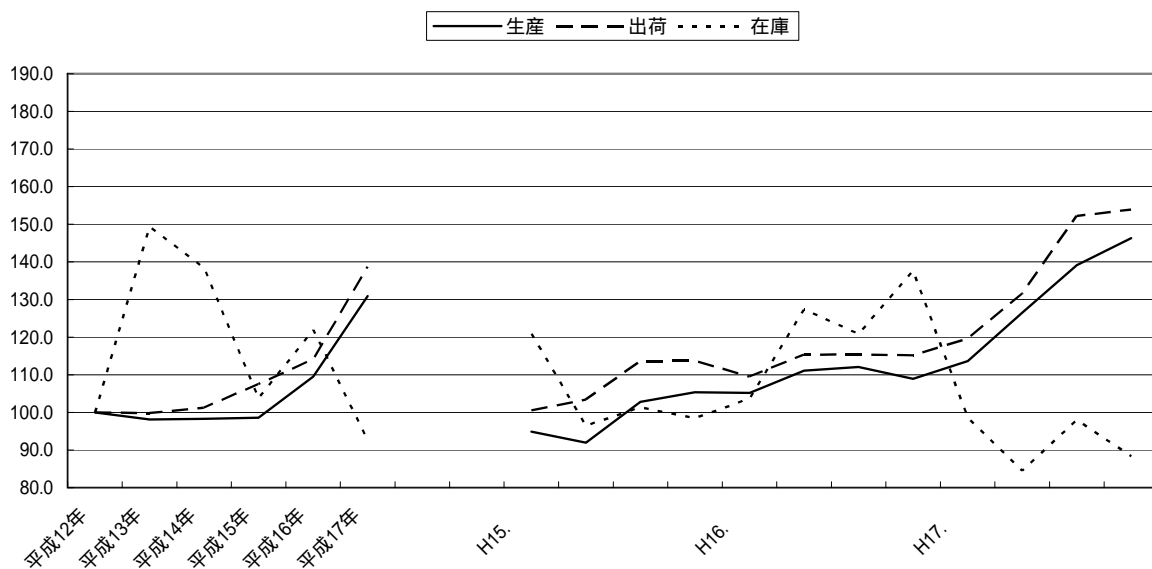
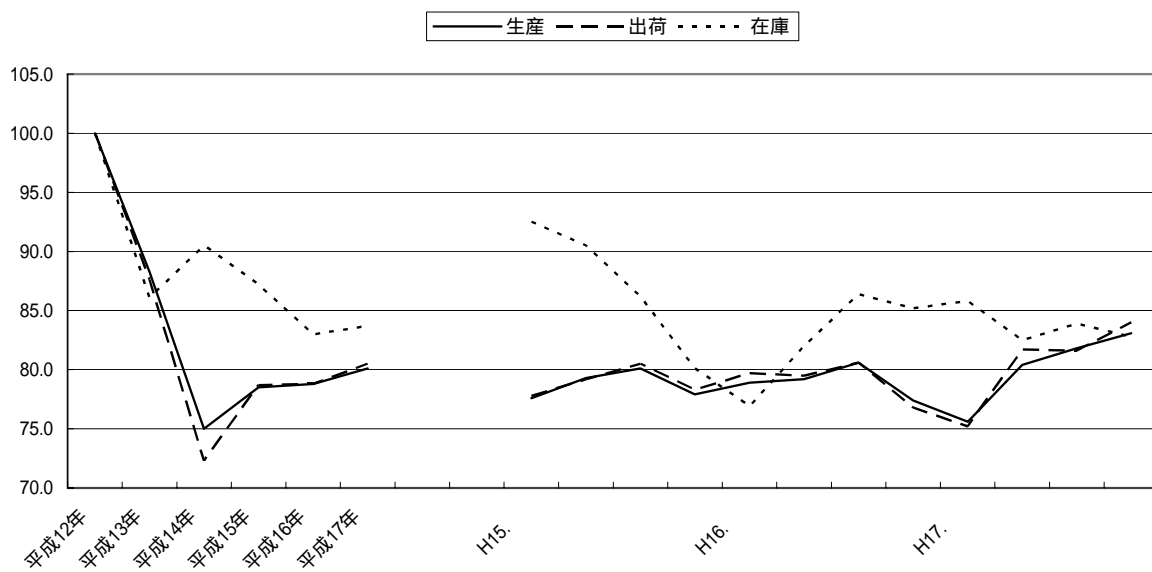


表51 建設財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	77.6	79.3	80.1	77.9	78.9	79.2	80.6	77.4	75.6	80.4	81.8	83.1
前期比(%)	5.0	2.2	1.0	2.7	1.3	0.4	1.8	4.0	2.3	6.3	1.7	1.6
出荷	77.8	79.2	80.5	78.3	79.7	79.5	80.6	76.8	75.2	81.7	81.6	84.0
前期比(%)	8.5	1.8	1.6	2.7	1.8	0.3	1.4	4.7	2.1	8.6	0.1	2.9
在庫	92.5	90.5	86.2	80.1	76.9	82.0	86.4	85.2	85.8	82.5	83.9	82.8
前期比(%)	4.1	2.2	4.8	7.1	4.0	6.6	5.4	1.4	0.7	3.8	1.7	1.3

図31 建設財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



ウ 消費財

平成17年の消費財の生産指数(原指数年平均)は、耐久消費財が80.8で前年比4.8%上昇し、非耐久消費財が89.5で同3.5%低下し、全体として87.2となり同1.5%の低下となった(表46)。

出荷指数(原指数年平均)は、耐久消費財が88.4で前年比1.0%上昇し、非耐久消費財が92.0で同2.7%低下し、全体として90.9となり同1.7%の低下となった。

在庫指数(原指数年平均)は、耐久消費財が109.3で前年比27.2%上昇し、非耐久消費財が115.7で同1.4%低下し、全体として113.2となり同7.9%の上昇となった。

消費財の季節調整済指数を四半期別にみると、生産指数は、平成17年 期から4期連続で低下した。出荷指数は、平成17年 期で上昇した後、 期から3期連続で低下した。在庫指数は平成17年 期で大きく上昇し、 期で大きく低下した後、 期、 期で上昇した(表52)。

表52 消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	94.9	91.2	87.5	91.4	88.1	85.9	88.1	90.8	89.5	88.9	87.2	84.0
前期比(%)	5.1	3.9	4.1	4.5	3.6	2.5	2.6	3.1	1.4	0.7	1.9	3.7
出荷	97.1	94.3	91.8	92.8	93.4	90.0	91.7	94.3	95.0	93.2	90.6	86.2
前期比(%)	5.1	2.9	2.7	1.1	0.6	3.6	1.9	2.8	0.7	1.9	2.8	4.9
在庫	108.5	118.0	107.4	99.4	103.6	106.6	104.7	103.9	121.1	105.5	112.2	116.0
前期比(%)	6.8	8.8	9.0	7.4	4.2	2.9	1.8	0.8	16.6	12.9	6.4	3.4

図32 消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

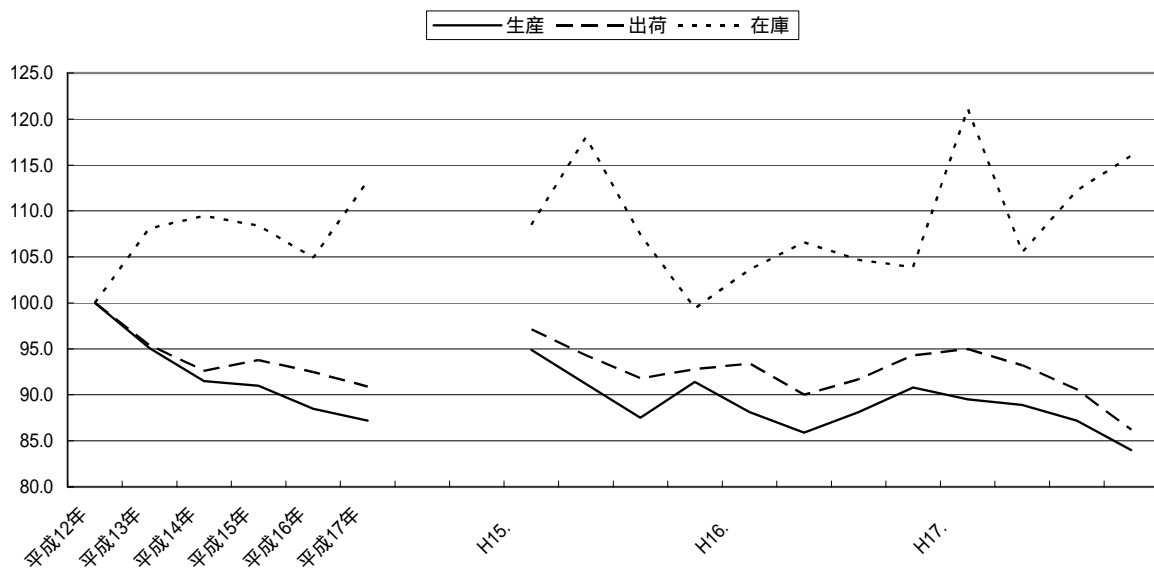


表53 耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	88.4	87.7	79.2	79.9	79.4	75.4	76.8	76.5	82.4	79.6	83.4	78.4
前期比(%)	0.3	0.8	9.7	0.9	0.6	5.0	1.9	0.4	7.7	3.4	4.8	6.0
出荷	95.1	93.3	92.7	88.9	88.4	84.2	87.1	89.2	90.4	85.5	92.8	85.5
前期比(%)	1.1	1.9	0.6	4.1	0.6	4.8	3.4	2.4	1.3	5.4	8.5	7.9
在庫	82.8	102.5	90.8	75.7	80.4	84.0	82.5	96.1	106.1	107.5	107.8	116.7
前期比(%)	7.4	23.8	11.4	16.6	6.2	4.5	1.8	16.5	10.4	1.3	0.3	8.3

図33 耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)

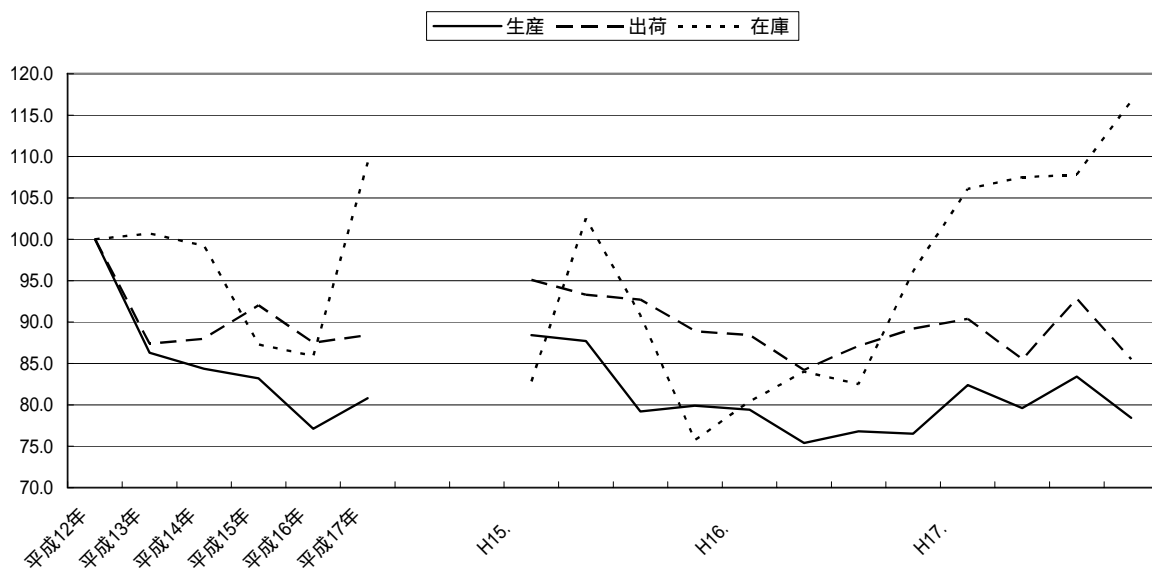
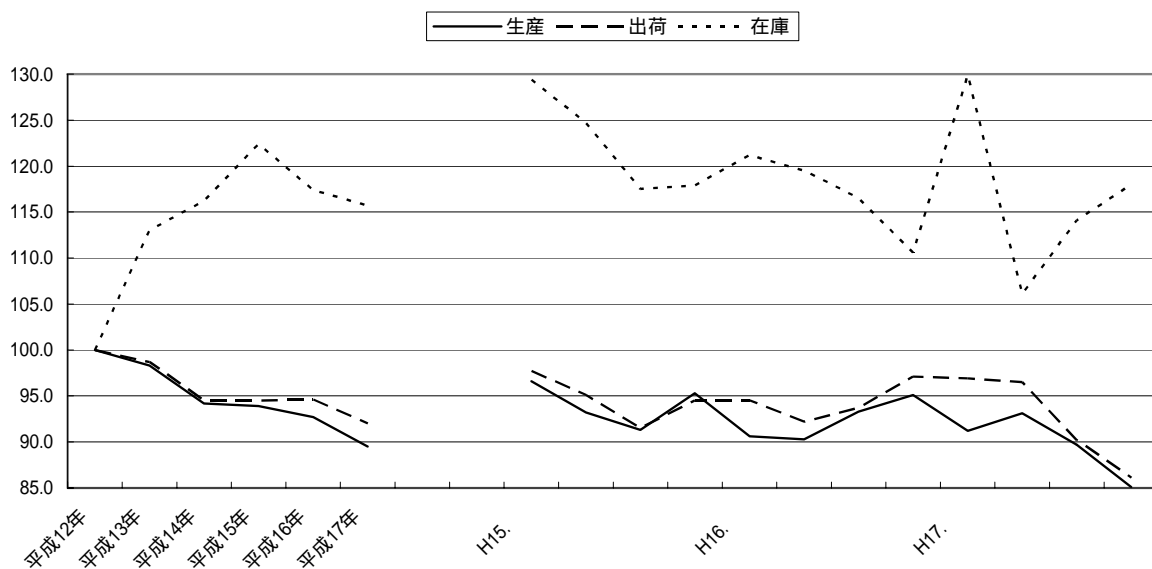


表54 非耐久消費財四半期別指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
生産	96.6	93.2	91.3	95.3	90.6	90.3	93.3	95.1	91.2	93.1	89.7	85.1
前期比(%)	6.3	3.5	2.0	4.4	4.9	0.3	3.3	1.9	4.1	2.1	3.7	5.1
出荷	97.7	95.1	91.5	94.5	94.5	92.2	93.7	97.1	96.9	96.5	90.2	86.1
前期比(%)	6.8	2.7	3.8	3.3	0.0	2.4	1.6	3.6	0.2	0.4	6.5	4.5
在庫	129.4	124.7	117.5	117.9	121.2	119.5	116.5	110.6	129.9	106.1	114.1	118.0
前期比(%)	16.9	3.6	5.8	0.3	2.8	1.4	2.5	5.1	17.5	18.3	7.5	3.4

図34 非耐久消費財年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)指数の推移(平成12年=100.0)



2 電力・ガス事業の推移

平成17年の生産指数（原指数年平均）は、85.0で前年比6.1%上昇と2年連続で上昇した（表55）。

品目別にみると、電力は前年比6.1%上昇と2年連続で上昇し、ガスは同1.7%上昇と2年ぶりに上昇した。

季節調整済指数を四半期別にみると、平成17年 期で低下した後、 期から3期連続で上昇した。（表56）

表55 電力・ガス事業年別生産指数の推移(原指数 平成12年=100.0)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
電力・ガス事業	96.0	96.4	55.9	80.1	85.0
前年比(%)	4.0	0.4	42.0	43.3	6.1
電力	96.0	96.3	55.8	80.0	84.9
前年比(%)	4.0	0.3	42.1	43.4	6.1
ガス	100.5	99.1	99.6	97.9	99.6
前年比(%)	0.5	1.4	0.5	1.7	1.7

表56 電力・ガス事業四半期別生産指数の推移(季節調整済指数 平成12年=100.0)

	平成15年				平成16年				平成17年			
	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期	前期
電力・ガス事業	65.3	42.2	58.5	57.5	75.3	90.3	77.1	77.2	72.4	80.4	90.9	97.5
前期比(%)	20.5	35.4	38.6	1.7	31.0	19.9	14.6	0.1	6.2	11.0	13.1	7.3
電力	65.1	42.1	58.4	57.4	75.1	90.3	77.1	77.2	72.3	80.4	90.8	97.5
前期比(%)	20.6	35.3	38.7	1.7	30.8	20.2	14.6	0.1	6.3	11.2	12.9	7.4
ガス	101.2	100.5	99.7	96.7	99.4	100.4	98.4	91.9	100.3	102.0	99.0	96.7
前期比(%)	0.5	0.7	0.8	3.0	2.8	1.0	2.0	6.6	9.1	1.7	2.9	2.3

図35 電力・ガス事業年別(原指数)・四半期別(季節調整済指数)生産指数の推移(平成12年=100.0)

